

黄色の書

イエローブック

EL LIBRO AMARILLO

ブッダたちは黄色いマントをはおっている。メンタル界の色は黄色である。人間が四つの罪の体から解放されるとき、ブッダとなる。……本書はマインドの科学の書である。

サマエル・アウン・ベオール

序 論

崇拜すべき母クンドリニーは、聖霊の燃える火である。彼女はイシスであり、マリアであり、マーヤー、アドニアであり、またインソベルタ、レア、キューベレ……である。

彼女は数え切れないほど多くの崇拜すべき名前を持っている。彼女は愛である。電気、ユニヴァーサルな磁気、宇宙的力、結合の諸法則、および惑星の重力は、心から崇拜すべき“母”によって作り出された。不変なる無限の中で輝き、きらめき、うち震えている惑星はみな、神聖なる母神の心地よい懐^{みところ}に抱^{いだ}かれている。

この上なく崇拜すべき母は、剃刀^{かみそり}のように切り立った危険な道を、わが子の手を取って導いていく。

聖なる母は、尾骨の教会の中で三回半とぐろを巻いて眠っている。全崇拜の的である母が、脊髄にある七つの黙示録の教会を開いてくれる。

我々は心臓寺院の内に、聖なる母を捜さなければならない。イニシエーションの十字架は、心臓の寺院で授かるからである。愛の崇拜すべき母、唯一彼女だけが、生命の普遍的魂が宿る深淵な子宮の中で自分の子供たちを目覚めさせることができる。

マインドを、嵐のない、穏やかな湖に変えなければならない。そうすれば湖面には、満天の星のパノラマが映る。マインドが静寂で、沈黙しているとき、聖なる母は満足して我々に祝福を与えてくれる。平和はマインドをコントロールしてこそ得られるものであり、思考の純粋さと清らかさは、ヨギを完成へと導く。我々はマスターたちを崇拜しなければならない。そして燃え上がる信念をもって、秘教的エクササイズを実践する必要がある。信念を持つ人々は、言語に絶する神聖な存在に変わるだろう。

智恵と愛は、三昧（聖者の法悦）に達した人々のマインドの中で光り輝く。この燃え上がる火の書によって、愛すべき弟子たちはみな、サマディの真のマスターになることができるだろう。

親愛なる兄弟たちよ、慎重な思慮分別を持って、イニシエーションの道を進みなさい。この道は内も外も危険に満ちていることを覚えておきなさい。これは剃刀の刃のような道である。

最も清冽な法悦の泉から、不老不死の神酒ネクターを飲みなさい。そして完全なる神聖さの道を歩みなさい。

聖なる母はアストラル体のすべてのチャクラを開く力を持っている。彼女はあらゆる点で完全なる母である。その完全なる母は、電子の中に住んでいる。その母を、ノーシスの賢者は瞑想し、神秘家は崇拜し、愛し合う二人は脊髄経路に沿って上昇させる。

精液を大切にしてください。アルカーノ A. Z. F. によって夢精を防ぎなさい。瞑想のために筋肉をリラックスさせ、背骨をしなやかにしておきなさい。そして純粋な水を飲み、夜明けに起床しなさい。ハチミツは宇宙的な白友愛結社の食物であることを覚えておくとよいだろう。果物、穀物、野菜を食べ、毎日瞑想しなさい。瞑想は賢者の日々の糧であることを心得ておきなさい。

『黄色の書（イエローブック）』は、完全に実用的な超越的神秘学の書である。親愛なる兄弟たちよ、ここにはアクエリアス（水瓶座）の新時代に必要とされるヨガがある。

聞くためには素直に、そして裁くためには寛大でありなさい。

秘密のうちにおわします父と、聖なる母クンダリーナがあなたがたを祝福しますように。

第一章 愛

我々が今日必要としているヨガは、本当のところ原始ノスティック・クリスチャン・ヨガであり、これはハタ・ヨガの理念を完全に否定するものである。我々はハタ・ヨガを推奨することはできない。その曲芸的な訓練は全く何の役にも立たないものであり、サーカスのピエロにこそふさわしいものだからである。

愛の神聖な魅力を、サーカスの曲芸と置き換えることはできない。愛は人生において最も偉大なものである。

エレウシスの密儀において、神秘的な愛の踊りの間、男と女は互いに魅了し、磁気化し合った。そのときの彼らの思いは、清らかで神聖な事柄で占められ、不純な考えを抱く者は一人もいなかった。エレウシスの偉大な祝典、喜び、踊り、口づけ、そして性の秘儀は、人間を真実の神々へと変えたのである。

愛の無上の歓喜のさなか、男と女は、眠れる美女、聖蛇クンダリーナを魅了し、目覚めさせる。一人の女と一人の男が愛し合うとき、宇宙の母のおそろしく神聖な力が蓄積される。そのおそろしく神聖な、きらきらと光輝く力はすべてのチャクラを光の洪水で満たす。チャクラとは、人間の内的な体にある霊の中枢、車輪、蓮華のことである。

背骨の火はエホヴァ的であり、心臓の火はキリスト的である。そして額には、父のおそろしく神聖な光線がきらめいている。

これらすべての三種類のエネルギーは、昇華された純粋な精液である。人間を救済する鍵は、精液の中に見出される。精液のエネルギーを心臓へと昇華しなければならない。聖なる母は、心臓の中にわが子、内なるキリストを見出す。母と子は心臓寺院の内に在って、イニシエーションの十字架を授かる。

性的な結びつきは必要であり可能であるが、精液をこぼす罪を犯すくらいならむしろ死んだほうがましである。魔術師がヘルメスの杯をこぼすと、女神イシス（いまだかつて死すべき者は誰一人としてそのヴェールを取ったことがない）のおそろしく神聖な力は遠ざかり、宇宙的な流れの中に溶解し、その人間は奈落へと沈んでいく。

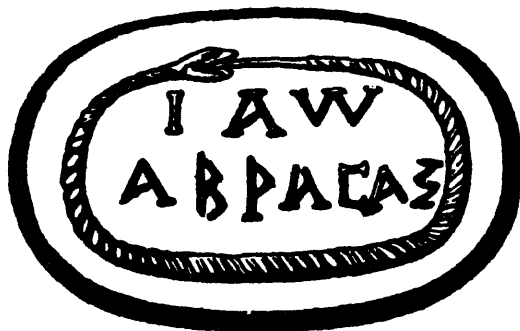
アルカーノ A. Z. F. の科学のすべては、おそろべきマントラ「I・A・O」に要約されている。このマントラを性の秘儀の愛のエクスタシーの間、唱えるとよい。

I. (Ignis 火)

A. (Aqua 水)

O. (Origo 起源、魂)

人の子を生み出すために、火は生命の水をはらませる。



かつてノスティックの身に付けたカメオには、自らの尾を喰うウロボロス（宇宙蛇）の円の中に、ギリシア文字で、I A O と A B R A X A S が彫られていた。イエス・キリストの教えを守ろうとしたグノーシス派の人々の間では、いずれの言葉も神の名に相当する言葉であった。

人の子は、常に一人の男と一人の女の間の子である。互いに愛し合い、アルカーノ A. Z. F. を実践するとき、二人は必然的に神々になる。

家庭内に喜びを、音楽を、花々を育み培いなさい。夫婦はありとあらゆる過ちを許し合いなさい。誰も完全ではないのだから。自分たちのあまりにも人間的な過ちを許し合うべきである。愛し合う二人の間では、愛と嫌悪とは両立しない。すべての嫌悪は、心理的な我（サタン）に属している。

現代ヨガは愛、音楽、ダンス、香り、口づけ、熱愛、プラーナヤーマ、瞑想、光明、悟り、智慧、幸福からなっている。現代ヨガはクリストに至る道であり、女性を敬愛する。隠者がハタ・ヨガで苦しむ時代は、もう終わった。これからのヨギは男も女も愛し合い、崇拝し合うのである。

愛は言葉で表現できるものではない。愛はおそろしく神聖である。

* * *

第二章 クンダリニー

クンダリニーは、エペソの教会に眠っている根源的エネルギーである。この黙示録の教会は、肛門から指二本上、生殖器から指二本下のところにある磁気的中枢である。

クンダリニーは魔力を持つ火の蛇である。神聖な蛇は三回半とぐろを巻いて、エペソの教会に眠っている。クンダリニーはペンテコステの火であり、聖なる母である。聖なる母の至聖所は心臓である。クンダリニーはマハーチョハン（宇宙の母、聖霊、第三ロゴス）のオーラの中で成長し、発展し、進化する。

背中の火はエホヴァ的であり、心臓の火はキリスト的である。そして額には父のおそろしく神聖な光線がきらめいている。心臓の火は、脊髓経路の中を聖なる蛇が上昇するのを支配する。クンダリニーは心の徳に従って成長し、発展し、進化する。クンダリニーは脳まで上昇し、それから心臓の至聖所に達しなければならない。

クンダリニーは電子の中に住んでいる。賢者はクンダリニーを瞑想し、帰依者は礼拝し、完全なる家庭では崇拜する。太陽原子と月原子が結合するとき、我々は不老不死の神酒ネクターを飲むことになる。なぜなら、クンダリニーが目覚めるからである。太陽原子と月原子が尾骨近くのトリベ三で結合するとき、電氣的誘導によってクンダリニーが目覚めるのである。

クンダリニーの覚醒には、プラナーヤーマ、精神集中と瞑想、心からの献身、意志と理解、聖なるマントラ、そして性の秘儀が必要である。またクンダリニーの覚醒は、白友愛結社に属するマスターの働きと恵みによっても可能である。なぜなら、それが聖なる母の願いだからである。もしヨギが精液をこぼすなら、クンダリニーの覚醒はありえない。脊髓経路の中をクンダリニーが上昇するスピードは非常に遅く、大変な困難を伴うものである。一つの脊椎骨から次の脊椎骨への聖なる蛇の歩みは、凄まじい試

練とおそろしい犠牲、そして至高の純化が必要である。それには欲望を殺すだけではなく、欲望の影すらも抹殺しなければならない。我々の銘は、テレマ（意志）である。

クンダリニーが脳の上部に位置する松果腺に達すると、我々は完全なエクスタシーを得る。

クンダリニーは蛇の形をしているが、帰依者の前では聖なる母、イシス、レア、キューベレ、マリアなどの姿をとって現れる。そのことを覚えておくといだろう。

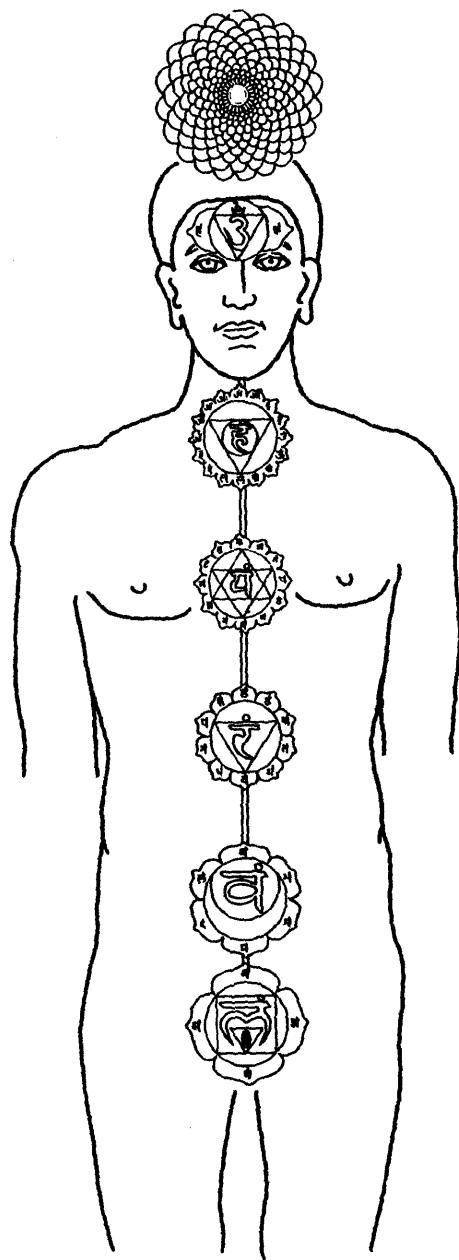
クンダリニーが覚醒すると、帰依者は驚くべきヴィジョンを見たり、様々な音を聞いたりする。そしてすべての霊的な力が発達し、太陽を一万個合わせたようなすばらしく輝く光を見ることだろう。それらは、エペソの教会と共に一斉に至福の光を放つ。

クンダリニーが脊髓経路を上昇し始めた後、精液をこぼすことがあれば、クンダリニーはその過ちの程度に応じて、脊椎骨の一つあるいはそれ以上下降する。姦淫者は、誰一人として宇宙的な自己実現を果たすことはできない。

水は火の住まいである。水をこぼせば火を失うことになる。

純潔は、偉大なる作業の基礎である。クンダリニーのすべての力は精液の中に見出される。クンダリニーのエネルギーを松果腺まで導くことに成功した者はみな、超意識（ニルビカルパ・サマディの状態）に到達する。この精神的高みに到達する者は、一人の覚者、一柱の神である。

クンダリニーは、天の三角形として知られる三角の空洞の中に住んでいる。それはエペソの教会の中心である。驚くべきエペソの神殿は四枚の花弁を持つ輝く蓮華であり、一千万個の太陽の光輝を放っている。賢者の土の精はこの蓮華に対応している。聖なる蛇がエペソの教会を開くと、地球の内部に棲むエレメンタル（精霊）を支配する力が与えられ、そのとき地



七つのチャクラと七つの教会

震を支配できるようになる。

蛇が前立腺の高さに達すると、スミルナの教会が開く。このチャクラは六枚の花弁を持ち、創造する力を与えてくれる。あらゆる創造は前立腺チャクラなしでは不可能である。インドのヨギ・クリスト、不死のババジは悠久の太古に肉体の起源を持つが、幾世紀も続く夜のしじまの中でその齢は今や見失われてしまった。ババジは前立腺チャクラの至高の長であり、全生命を操作し、創造し、再生する力を持っている。賢者の水の精（エンス・セミニス）は、このチャクラのエLEMENTである。スミルナの教会を開く者はみな、水と嵐を制御する力を持つことができる。

クンダリニーがへその部分に上昇すると、火山の火を制御する力が授けられる。ペルガモの教会は、このへその部分に位置している。このチャクラは十枚の花弁を持っている。賢者の火の精はこのチャクラのエLEMENTである。

クンダリニーが心臓の高さに達すると、テアテラの教会が開き、四つの氣息に働きかける力が授けられる。心臓の蓮華は十二枚の花弁を持ち、そのELEMENTは賢者の空気の精である。超感覚的世界の中に肉体ごと入りたければ、心臓チャクラを目覚めさせなければならない。聖なる蛇が心臓の高さに達すると、テアテラの教会が開き、我々は直観的になる。この教会が開くと、人間の肉体は物質界を抜け出し、超感覚的世界に入り込むことができる。これがいわゆるヒーナスの科学である。

クンダリニーが喉頭の部分に達すると、超感覚的世界の住人たちの声を聞く力が授けられる。この喉頭チャクラに位置するのが、サルデスの教会である。このチャクラは十六枚の花弁を持っている。クンダリニーがこの高さに達すると、それは我々の肥沃な唇に「ことば」となって花開く。

クンダリニーが眉間の高さに達すると、フィラデルフィアの教会が開く。これは智慧の目である。この磁気中枢の中に父が住んでいる。眉間のチャクラは二枚の花弁を持ち、これはマインドの玉座である。物質的マインドがクリスト・マインドに変換されるとき、ブッダのケーブとシヴァの目を

授かる。額のチャクラを目覚めさせる者はみな、超視覚者になることができる。

クンダリーニーが松果腺に達すると、ラオデキヤの教会が開く。このチャクラは、きらめく千枚の花弁を持っている。これは聖人の頭に光輪のように輝く王冠である。聖霊の原子が松果腺の中に存在する。この教会で我々は聖霊の白鳩を授かり、光明、智慧、全知で満たされる。

エペソの教会で我々は土の精を征服する。

スミルナの教会では水の精を征服する。

ペルガモの教会では火の精を征服する。

テアテラの教会では空気の精を征服する。

サルデスの教会ではアカーシャの流れを征服する。

フィラデルフィアの教会ではマインドを征服する。

ラオデキヤの教会では光を征服する。

このようにして、メルキセデックの命により自然界の王と司祭になる。

鼻根の磁場に父の原子がある。脳下垂体に子の原子があり、松果腺に聖霊の原子がある。

* * *

第三章 二人の証人

背骨にからみ合う二人の証人は、聖なる「8」を形づくり、マーキュリーの杖を形成する。

二本の共鳴経路は、背骨の左右に位置している。二人の証人は左から右へと交互に上昇し、眉間のまわりの空間にすばらしい結び目をつくる。それから鼻孔へと進む。

右側から始まる共鳴経路は左側の進路をとり、心臓の高さのところで右側に移って眉間まで進み、そのあと左の鼻孔につながる。左側から始まる共鳴経路はその逆の進路をとって、右の鼻孔で終わる。

左側から始まる共鳴経路は寒く、右側から始まる経路は暑い。

(訳者注: この場合は女性を指している。図参照)

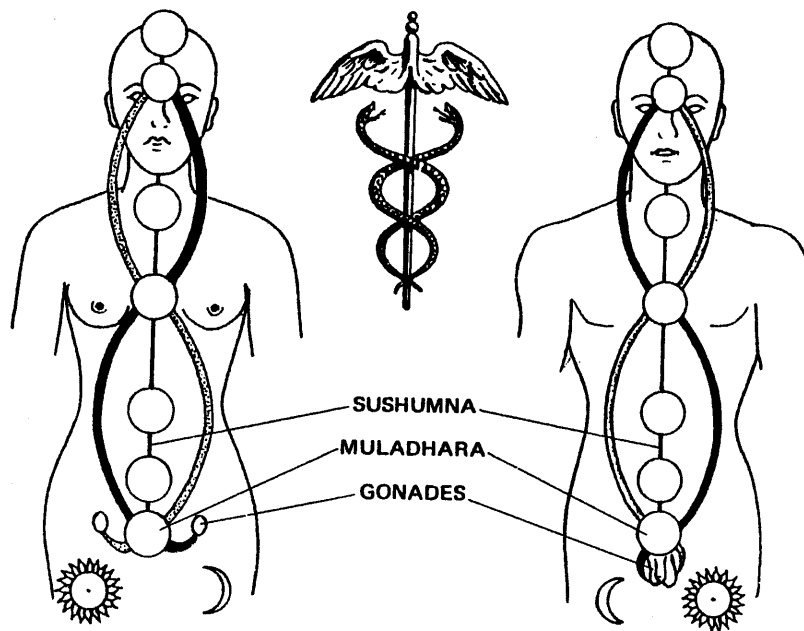
寒い経路は月の性質を持ち、暑い経路は太陽の性質を持つ。この対の共鳴経路を通して、精液組織の太陽原子と月原子は脳に上昇する。精液組織の太陽原子と月原子が尾骨で接触するとき、クンダリーニーは必然的に目覚める。

脊髄経路の下部には穴があり、これは一般の人々では通常閉ざされている。精液の蒸気がその穴を開き、クンダリーニーはそこから中へ入る。ヨガには、その穴をすばやく開くための特別なエクササイズがある。このエクササイズは、プラーナヤーマと呼ばれる。

クンダリーニーが勝ち誇ってチャクラからチャクラへと上昇するとき、上昇を妨げる結節や障害物は取り除かれる。

ノーシスの兄弟たちに一つ重要なことを警告しておかなければならない。それはクンダリーニーの神聖な火は分極された状態にあるということである。

決して精液をこぼさない場合でも、一部の学徒たちは酒を飲み、毎日のように性的情欲を貪っている。そのような行為の結果、彼らは下腹部のチャクラに火を偏らせてしまい、千弁の蓮華（ラオデキヤの教会）を享受するという幸福を失っているのである。このチャクラは、神人のえも言われぬ幸福、完全なるエクスタシーを授けるダイヤモンドの目である。またこのラオデキヤの教会は我々が意識的に魂で離脱し、実際にニルヴァーナの領域を旅する能力を授けてくれる。



蛇を杖の上に上昇させようとする者は、思考と言葉と行為において絶対に純潔でなければならない。そして毎日、内的瞑想を行わなければならない。強欲であつたり、酒を飲んでではない。いつも清潔で、礼儀正しく、常に清純でありなさい。そのようなとき、ラオデキヤの教会に火は集中し、我々はエクスタシーを享受することができるのである。

二人の証人は、クンダリニーを目覚めさせる力を持っている。「彼らは全地の主の御前に立っている二本のオリーブの木、また二つの燭台である」。

「もし彼らに害を加えようとする者があれば、彼らの口から火が出て、その敵を滅ぼすであろう。もし彼らに害を加えようとする者があれば、その者はこのように殺されなければならない。預言をしている期間、彼らは天を閉じて雨を降らせないようにする力を持っている。さらにまた、水に交え、何度でも思うままにあらゆる災害で地を打つ力を持っている」。

（『ヨハネの黙示録』 11:3、4、5、6）

クンダリニーと共に働く者は、聖なる母に対して揺るぎない信仰を持たなければならない。彼女は自分の帰依者の手をとって導き、自分の子供をチャクラからチャクラへと案内する。ノーシスの学徒を援助し、教え、力づけ、そして自己実現のために準備する。帰依者はみな、自分の聖なる母に神聖な火を与えてくれるようにお願いとよいだろう。火の降臨後は、日々聖なる母について瞑想しなさい。母は学徒を教え、手を引いて導き、剃刀のような切り立った困難な道を案内してくれるだろう。この道は、内も外も危険に満ちたものである。

スワミ・シヴァナンダ (Shivananda) は、聖なる母の瞑想に役立つ祈りを残してくれた。その祈りは次の通りである。

「聖なる母よ、われは御身のもの、御身はわれの唯一の頼り、そして支え。われを守り、導き、哀れみたまえ」。

兄弟たちよ、聖なる母は必ず応えてくれるということを覚えておきなさい。母の恩寵がなければ、クンダリニーはチャクラを巡って、ラオデキヤの教会に達することはできない。

第四章 クンダリニー覚醒のためのマントラ

神聖なマントラは、クンダリニーを覚醒させる力を持っている。天使アロッチ（天使たちの指揮者）は、クンダリニー覚醒のための、この世で最強のマントラの歌を教えてくれた。天使がこの妙なる感動的な歌を歌ったとき、我々はエクスタシーで満たされた。それから天使は彼のあとについて歌うように促したので、我々はマントラの歌を歌った。それは次のとおりである。

カンディル バンディル ルルルー
KANDIL BANDIL RRR.....

このマントラの歌は、次のように歌う。

カー ンー ディー ルー
KAAAAANNNNN DIIIIILLLLLL
バー ンー ディー ルー
BAAAAANNNNN DIIIIILLLLLL
ルルルー
RRRRRRR.....

（KANは高い声で、DILは低い声で、BANは甲高く、DILはまた低い声で、そしてRは巻き舌で発声する）。

文字「R」は、子供がモーターの音をまねて発する騒がしい声のように行う。兄弟たちよ、これがクンダリニーの歌の歌い方である。

クンダリニーと共に働いている者はみな、文字「S」を忘れてはならない。愛する兄弟たちよ、「S」は精液を異なったエネルギーの段階に昇華する力を持っていることを覚えておきなさい。精液を七段階のエネルギー、七段階の火の力に昇華すべきである。とても柔らかく穏やかな口笛のように、「S」を響かせるのである。下の歯に上の歯を合わせ、大変繊細な口笛の音を出す。それはかすかな音であり、その音をヨギは歌い、使いこなせるようになる必要がある。

ヨギはヘルメスの杯を密封して塞いでおかなければならない。夢精に苦

しんだり、絶えず姦淫したりするヨギは、底の抜けた壺や樽を満たそうとする者と同じである。ヨギは精液を七種類のエネルギーに昇華しなければならない。文字「S」は、精液を七段階のエネルギーに昇華する力を持っている。

インドのヨギ・クリスト、ババジのクリヤは、文字「S」（柔らかく穏やかな口笛）の力について教えている。柔和で細やかなヨギの口笛の背後には、繊細な音、さらに一層精妙な口笛がある。それが脳に反響するとき、即座に幽体離脱する能力がヨギに授けられる。

クンダリニーと共に働いている帰依者はみな、必ず文字「S」とともにプラクティスを行うべきである。SSSSSS.....。こうして、とても繊細な口笛のようにSを発音することによって、精液はクンダリニーの神聖な火に昇華される。

天使アロッチのマントラの歌と、柔和で優しい口笛は、クンダリニー覚醒のために絶対必要である。

* * *

第五章 智恵の子

真のノスティック夫婦は、智恵の子をもうけることができる。またそうしなければならない。愛すべき弟子たちよ、智恵の子は姦淫の子ではないということを理解してほしい。

ノスティックの夫婦が白ロッジのある偉大なマスターに肉体を提供したいと望むとき、必然的にタロットの第九番目のアルカーノ（神秘）とともに第九球体に降りて行かなければならない。そのアルカーノとは性である。

智恵の子の母はクリヤー・シャクティの力によって、創造する前に九ヵ月の間準備をする。この期間、妻は聖なる母に対する絶え間ない祈りの中にいなければならない。人類を援助する偉大なマスターを胎内にはらむという幸せを授かることができるように、全身全霊を込めて聖なる母に祈願するのである。夫と秘密の行為を行う前に、準備が必要である。すなわち純潔、高德、そして瞑想に九ヵ月を要する。

赤ん坊の未来の父も、決して姦淫してはならない。夫は九ヵ月間慎まなければならない。夫婦は聖なる母にひたすら祈りながら、偉大なマスターを子に持つという幸せを祈願しなければならない。

夫婦は思考と言葉、行動において純潔でなければならない。

神聖な交わりは春、花の月、五月に行う。仏陀は五月に降りてきて、人類を祝福する。行為は、金曜日の夜明けに行うとよい。明けの明星が燦然と輝いているときに。

二人は精液を放出せずに、行為から身を引かなければならない。月のヒエラルキー（天使団）は、子宮を受胎させるのに男性の精子と女性の卵子を使う術^{ナベ}を心得ている。

母親は毎月異なった姿勢で寝るとよい。ある月は右を下にして、別の月は左を下にしてというように。このようにして、胎児の体は一切の宇宙的恩恵を受けることができるだろう。

レムリア時代、このワークはすべて密儀の大神殿の中で行われていた。その当時、陣痛を伴って分娩されることはなかった。

このようにして智恵の子は生まれる。そのようにしてクリヤー・シャクティは創造する。

歴史の闇に失われてしまったこの超古代の方法で、ヨギの夫婦はみな、尊敬すべき白ロッジの、偉大なるマスターのいずれにも肉体の乗り物を提供することができる。

この驚くべき鍵は、新人類を創造するのに七百万個もの精子を放出する必要がないことを明確に証明している。神は「生めよ、増えよ」と言われた。しかし「生めよ、姦淫せよ」とは言われなかった。射精は罪である。獣的な姦淫である。太古、楽園の生殖は、男性の射精も女性のオルガズムもなしで実現した。

古代の“地球であった月”の闇のルシファーたちは、人間に精液を放出することを教えた。そのとき人間は力を失った。エデンの園からの追放が、このことを表している。

ノーシスは、自然に反することは何も教えない。精液をこぼさないことは、正常かつ自然なことである。性の洗練を教えているのではなく、本当に自然で正常なことを教えているのである。賢者の石は悪人にとって、つまづきの石、妨げの岩であるために、人々は憤慨する。（つまづきの石とは性のことである）。

悪人は性の秘儀を嫌う。肉欲の満足を奪い去るものが少しでもあれば、我慢ならないのである。悪人は純潔に嫌悪を感じる。それが哀れな人々の法則である。彼らは肉の悦びを楽しむために生き、純潔を嫌う。

第六章

ウルドヴァラタ

性の秘儀（アルカーノ A. Z. F.）は、インドではウルドヴァラタ (Urdhvarata) というサンスクリット語で知られている。インドではアルカーノ A. Z. F. を実践する者はみな、ウルドヴァラタ・ヨギと呼ばれる。

『ヨガの秘密』というインドの書物の中には、グラン・アルカーノ（大いなる神秘）が見出される。その著者はインド南部出身のヨギである。

ダグ・ドゥグパス (Dag Dugpas) 一門の闇の僧たちには、戦慄を覚える。彼らは黒魔術の実践の中で、精液を放出するという致命的でおそろしい黒タントリズムにふけているのである。この僧たちは、放出した精液を再吸収するという致命的なテクニックを使っている。このテクニックは黒ヴァジロリとして知られているが、全くの暗黒面に適用されたものである。これに関して、さらに詳しく説明するのは止めておこう。精神的に弱い人々が数多くいること、そして彼らはその僧たちのおそろしいタントリズムに容易に陥ってしまうことをよく知っているからである。そうなれば、カルマは必然的に我々の上に襲いかかるだろう。

女性生殖器の中に放出され、その後再吸収された精液は、隠れた敵の原子ではなはだしく充電されている。これらは、人間自身の原子地獄からかき集められたサタンの原子である。このタントリズムの必然的結果として、蛇は下方へ、自然の原子地獄へ向かって下降する。このようにして人間的パーソナリティは、最後には神聖な魂から完全に分離することになる。そのとき人間は悪魔に変わるのである。

他の時代においても、インドのアシュラム（道場）では、アルカーノ A. Z. F. が実践されてきた。ヨギたちはヴァジロリで性の秘儀の準備をしていたが、不幸にも若い男女の弟子たちが騒ぎを起し始めたのである。そのときグルたちは秘教のカーテンを降ろし、A. Z. F. を禁じたが、それにもかかわらず秘伝を授けられた男と女のヨギは、密かに A. Z. F. を行った。明らかに、禁じられていたにもかかわらず。

実際のところ、禁じられたことによって、利益よりもむしろ損失がもたらされた。誰もがブラマチャリヤ（完全な禁欲）を守れないので、ブラマチャリヤ制度は失敗に終わった。その追従者は明らかに夢精に悩まされた。このようにして蓄積する精液は失われ、奈落の犠牲者となったのである。

A. Z. F. は丈夫で、健康で、すばらしい子供たちを創造するための方法である。A. Z. F. によって、子宮を受胎させるべき精子が選ばれる。アルカーノ A. Z. F. の実践中、首尾よく抜け出した精子は、本当に真の超人をつくり出す選り抜きの力強い精子である。このようにして、神々の人種を生み出すことができるのである。アルカーノ A. Z. F. によって、背中の火をすべて完璧に発達させ、完全に根本的な自己実現を達成することができる。

偉大なヨギ、H. P. ブラヴァツキー夫人は、ブラヴァツキー伯爵の未亡人となった後、アルカーノ A. Z. F. を実践するために再婚する必要があった。このようにして、初めて四十九の火を完全に発達させることができた。

既婚者であったヨギ・アバターラ、ラヒリ・マハサヤは、ババジと呼ばれて、イニシエーションを授けられた。このようにして、ヨギ・アバターラは自己実現に至った。

アシュラムのグルたちは、明言する必要があったときにそうしなかったカルマを支払わなければならない。隠された至聖所からは何も得られなかった。勇気をふるってはっきりと話すほうがよい。

アルカーノ A. Z. F. の鍵は、男根と女陰の結合に見出される。射精をせずに性行為から身を引くことが最も重要である。生涯を通じてヘルメスの杯を絶対にこぼしてはならない。このようにして、我々はおそしく神聖な神々になることができるのである。

我々の銘はテレマ（意志）である。

ウルドヴァラタによってクンドリニーは覚醒し、完全に発達する。

神はいかなる姿、形も持たない。神は抽象的絶対空間と本質的に一致する。神とは「あれ」…「あれ」…「あれ」である。神は智慧と愛という二つの側面を持っている。智慧としての神は父であり、愛としての神は母である。

クリストは神の子である。クリストは一個人ではなく、軍隊である。声の軍隊、言葉である。

新たな宇宙の昼が始まる前、父、母、子は一体で、「あれ」…「あれ」…「あれ」であった。

父としての神は、智慧の目に住んでいる。この目は眉間にある。母としての神は、心臓寺院に住んでいる。

智慧と愛は、偉大なる白ロジの基本的な二本の柱である。

各人の内には声の軍隊の兵士がいる。その兵士は、この世に生まれるすべての人間の、内なるクリストである。

七重の人間は、声の軍隊の兵士の罪深い影にすぎない。

太陽人間を、内なるクリストを具現する必要がある。聖なる母は我々を助ける。求めよ、そうすれば、与えられるであろう。門をたたけ、そうすれば、開けてもらえるであろう。

愛としての神は、いまだかつて死すべき者は誰一人としてそのヴェールを上げたことのないイシスである。そのおそろしく神聖なヴェールをあえて上げようとするのは誰か。俗人や、神聖さを汚す者はイシスのヴェールをあえて取ろうとするが、その行為のなんと愚かなことよ。

帰依者が聖なる母に願いごとをするとき、半覚半醒の中、深い内的瞑想に沈んでいかなければならない。真実の帰依者は聖なる母の答えを受け取るまで、寝床から起きたり、飲食をしたりしてはいけない。

宇宙の母は形を持たないが、懇願者に応えるために何らかの姿を取ることがある。イシス、レア、キュベレ、トナンツィン、マリアなどとして現れる。

帰依者に答えを与え終わると、聖なる母は瞬時に姿を消す。なぜなら、もはや姿を必要としないからである。

聖なる母は「あれ」の第二の側面であり、そしてその名は「愛」である。愛は、非常に深遠な抽象空間と本質的に一致している、ある実質である。

聖なる母は一人の女性ではなく、またある一個人でもない。知られざる本質にすぎない。あらゆる形を取り、その後、瞬時に消滅する。それは愛である。

母なる神は愛である。我々を慈しみ、おそろしいまでに深く愛してくれる。我々がアルカーノ A. Z. F. と働くとき、世界の母なる神は脊髄経路を上昇し、火の蛇に変わるものである。

世界の母なる神はデビ・クングリニーである。聖なる母は優しい両腕にわが子を抱いている。各人の内なるクリストとは、その子のことである。母は「あれ」…「あれ」…「あれ」…イシス… 愛… 神秘である。

力を欲する帰依者は、聖なる母を求めなければならない。真実の帰依者は、母なる神にひざまづくものである。

もし帰依者が自分の誤りを正し、聖性の道を歩むことを心から決心するならば、聖なる母に過去のカルマの許しを請うことができる。そして聖なる母は彼を許すことだろう。しかし誤りを正さず、また聖性の道を進まないのであれば、聖なる母に許しを願っても無駄である。なぜなら、母は許

さないからである。

聖なる母は、心から後悔しているわが子を許す。我々は聖なる母の子である。それゆえ彼女はわが子を許すことをわきまえている。

悪行のカルマ、過去生のカルマはすべて、聖なる母によって許される。心の底から後悔しているときには、罰は不要である。



第八章 エジプト式プラーナヤーマ

プラーナとは偉大な氣息である。コスミック・クリストである。プラーナは、各原子の中に鼓動している生命である。それは同時に、太陽の一つひとつの中にも鼓動している。

火はプラーナゆえに燃え、水はプラーナゆえに流れ、風はプラーナゆえに吹き、太陽はプラーナゆえに存在する。我々自身の命はプラーナである。プラーナなしでは、宇宙に何も存在できないだろう。プラーナなしでは、取るに足らない虫でさえ生まれることはできない。小さな花でさえ咲くことはできない。プラーナは、我々が口にする食物の中にも、呼吸する空気の中にも、飲み水の中にも、どこにでも存在する。

精液のエネルギーが昇華され完全に変換されるとき、神経系には最も精錬されたプラーナが供給される。このプラーナは、光のワインとして、驚くべきクリステック・エネルギーとして脳内に貯えられる。

マインドとプラーナと精液の間には密接な関係がある。意志の力で精液のエネルギーをコントロールすることができれば、マインドとプラーナを我々の支配下に置くことができる。

精液をこぼす者たちは、マインドもプラーナも一度たりとも支配することはできないだろう。それは失敗に帰する。性の支配権を得る者は、マインドとプラーナの支配権も得るだろう。そして真の解脱に至ることができる。このような真実の人々は長寿のエリキサ（霊薬）を手にすることができる。

インドのヨギ・クリスト（聖なるババジ）とともに生きる不死の人々はみな、何千年もの間肉体を保持している。死は、彼らに触れることはできない。彼らは至高の純潔を達成した後、プラーナとマインドを支配したのである。

プラーナはユニヴァーサルなエネルギーであり、命であり、光であり、歓喜である。プラーナヤーマ実践の主要な目的は、精液組織の太陽原子と月原子を結合させ、クンダリーニを覚醒させることにある。

◆ プラーナヤーマの秘教プラクティス

1. 帰依者は東を向いて椅子に座る。
2. クンダリーニが目覚めるように聖なる母に懇願しながら、一心に祈りを捧げる。
3. 垂直に垂らした一本の糸のように、胸、首、頭をまっ直ぐにする。身体を前後左右に曲げない。両手のひらはごく自然に脚の上に置く。
4. 愛と崇拝の念を持って、内在する聖なる母に自分のマインドを向ける。
5. 物質界の物事に注意を逸らされないように目を閉じる。
6. 右手の親指で右の鼻孔を閉じて、心の中でマントラ「トン(TON)」を唱える。同時に左の鼻孔からごくゆっくりと息を吸い込む。(*女性の場合は正反対になる。人差し指で左鼻孔を閉じて「トン」を唱えることから始める。)
7. 今度は人差し指で左の鼻孔を閉じて息を保持する。クンダリーニを目覚めさせるために、尾骨に位置するエベソの教会にプラーナを送り、心の中でマントラ「サー(SA)」を発音する。
8. 心の中でマントラ「ハム (HAM)」を発音しながら、右の鼻孔からゆっくりと息を吐く。
9. 人差し指で左の鼻孔を閉じたままにする。
10. 心の中でマントラ「トン(TON)」を発音しながら、右の鼻孔から命、プラーナを吸い込む。両方の鼻孔を人差し指と親指で閉じて、息を保持し、マントラ「ラー(RA)」をメンタリーに発音する。クンダリーニを目覚めさせるために、尾骨の磁気中枢にプラーナを送る。
11. 心の中でマントラ「ハム(HAM)」を発音しながら、ごくゆっくりと左の鼻孔から息を吐く。
12. 以上が完全なプラーナヤーマである。
13. 夜明けと日暮れに、6サイクルのプラーナヤーマを行うとよい。
14. 椅子から立ち上がりひざまずく。
15. 両手のひらを床に置き、両手の間で親指と親指を付ける。
16. 前かがみになって床にひざまずき、心から崇拝の念を持って、東に向

かって額を手の甲の上に置く。これがエジプト式姿勢である。

17. 創造的な喉を使って、エジプト人の力強いマントラ「ラー(RA)」を発音する。このマントラは構成する二つの文字の音を伸ばして次のように発音する。

RRRRRRRAAAAAA..... (7回連続して発音する)。
ルルルル... ラー

(1)



トン

(2)



サー

(3)



ハム

(4)



トン

(5)



ラー

(6)



ハム



両手で三角形を作り
額をのせる

以上がエジプト式プラナーヤーマの17項目である。マントラ「^{ラー}RA」は、クンダリニーとチャクラを振動させ、目覚めさせる力がある。プラナーヤーマのマントラは、「TON-S^{トン}A-H^{サー}AM, TON-R^{トン}A-H^{ラー}AM」である。プラナーヤーマによって、クンダリニーが覚醒し、無知の闇の領域と無気力は消え失せる。また怠惰と愚鈍は一掃される。

プラナーはマインドと関係している。マインドは意志の乗り物であり、意志は偉大な世界靈魂に従うべきである。内なる乗り物はすべてプラナーヤーマによって支配しなければならない。プラナーとは命である。

右の鼻孔は太陽の性質を持ち、左の鼻孔は月の性質を持っている。「二人の証人」は鼻孔と関係があり、精のうは一对の神経経路によって二人の証人とつながっている。つまり、黙示録の「二人の証人」は精のうから始まると言うことができる。この二つの精のうは二つの命の大洋である。モーゼは自分のマスターを二つの大洋の合流点に見出したという。

この章では西洋の帰依者のためにエジプト式プラナーヤーマを教えたが、クンダリニー覚醒を望む者は、生涯、毎日プラナーヤーマを根気よく続けなければならない。プラナーヤーマの実践にあてる部屋は、湿気が多かったり、換気が悪かったり、また不潔であってはならない。部屋は清潔で、整然としている必要がある。またプラナーヤーマは野原でも山でも海辺などでも実践することができる。

プラナーヤーマにより性エネルギーはクリステック・エネルギーに昇華される。そしてクンダリニーは覚醒し、チャクラは完全に開かれる。プラナーヤーマは特に独身者のための性エネルギー昇華法であるが、夫婦も同様に効果を上げることができる。

* * *

第九章 独身者のための性エネルギー昇華法

ヨガとは「神との合一」を意味する。あらかじめクンダリニーを目覚めさせないかぎり、誰も最愛なる者と合一することはできないだろう。また至高の純潔に至らないかぎり、何人も確実にクンダリニーを目覚めさせることはできないだろう。放棄の水で足を洗うことが不可欠である。「狭い戸口から入るように努めなさい。事実、入ろうとしても、入れない人が多いのだから」。(『ルカ福音書』13:24)

真っすぐで、狭く、困難な扉が性であるということを知るのは極めて重要である。性の扉を通して我々はエデンの園から出たのである。唯一その扉から、エデンの園へ入ることができる。エデンの園とは、まさしく性である。誰も偽りの扉を通してエデンの園へ入ることはできない。我々が出てきた扉から中へと入らなければならない。それが法である。

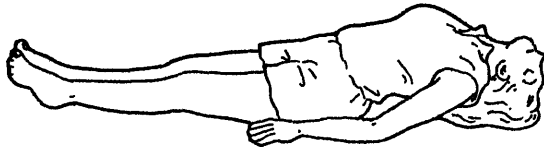
何らかの理由でアルカーノA. Z. F. を実践できない神秘学徒は、性エネルギー昇華の科学について十分な理解が得られるまで研究する必要がある。

一つの秘密の鍵が存在する。その鍵によって独身の帰依者は「科学の箱」を開けることができる。

◆————独身者のための性エネルギー昇華のプラクティス

ポーズ1：この道の帰依者は床（地面）に腰をおろし、ヒキガエルの姿勢を真似る。

ポーズ2：ベッド（床または地面）に仰向けに横たわり、胴体を上に突き上げるようにして、頭をできるだけ下にする。あたかも猛り狂ったヒキガエルのように胸を膨らませる。



◆——ポーズ1の精神的態度

意志と想像力を調和的に力強く結びつける。自分をヒキガエルだと思わなければならない。生命の純粋な水の小川の中にいることを想像しなさい。そして意志と想像力を結びつけて、性エネルギーを生殖器から脳の聖杯に向かって上昇させるのである。有名なマーキュリーの杖を形成しながら脊髄にからみつく一対の共鳴弦に沿って、精液のエネルギーを上昇させなければならない。

◆——ポーズ2の精神的態度

意志と想像力を調和的に力強く結びつける。ヒキガエルのように胸を膨らませる。これは呼吸によって初めて可能となる。生気を吸入する間、脊髄に絡みつく二本の共鳴経路を通して精液のエネルギーが上昇していくことを想像する。そのすばらしい精液のエネルギーを脳まで上昇させ、そして心臓へと導く。次に心臓寺院にエネルギーを貯えながら生気を吐く。

我々の銘はテレマ（意志）である。

◆——このプラクティスのマントラ

ヒキガエルの歌を真似なさい。ヒキガエルの神秘的なその鳴き声がマントラである。

◆——このプラクティスの起源

宇宙の聖なる母が、ノーシスの兄弟たちにこの「科学の箱」の驚くべき鍵を授けてくれた。聖なる母は自分の子供たち全員を気遣っている。生命の純粋な水の中で、汚れない蓮華の上にいるヒキガエルは、ファラオたちの古代エジプトにおける性のシンボルであった。

ヒキガエルの歌

深く息を吸いながら性エネルギーを背骨を通して脳まで上昇させる。そこで息を止め脳を光で満たす。次にマントラを発音しながら息を吐き、そのエネルギーを心臓に導く。次のように発音する。

グルル— ワ—
G R R R R R W A A A A A A K

第十章 秘教的規律

ノスティックは秩序を守り、規律正しくあるべきである。酒を飲んでいては、誰一人として真実の前進を実現することはできない。

ノスティックは節度を守るべきである。飲酒、大食を止め、他人の悪口を言わず、怠惰であってはならない。

毎晩十時に寝室に引き下がって内的瞑想を行い、そして夜明けに起きてすべての秘教的プラクティスを実践すべきである。

ノスティックは清潔で、身だしなみがよく、品位があり、高潔で、いつも礼儀正しく、常に陽気であるべきである。そして決して誰に対しても怒りをぶつけてはならない。

心から自己実現することを決意した帰依者は、たとえ一杯のワインであっても決して酒を飲んでではない。酒は害を与え、すべてを台無しにすることを知みなさい。酒は地獄のものである。酒飲みは必然的に地獄に落ちる。酔っぱらいは自己実現することはできない。

帰依者は毎日入浴し、身なりを整えるべきである。身なりが悪くて不潔なノスティック、つまり全く入浴しない者とか、いつも大変だらしない者は人類に被害を与える。なぜならノスティックは下品だという悪評により多くの人々をノーシスの学習から遠ざけるからである。そのとき人々は言うだろう。「ノスティックというのはこういう人か。私は墮落したくない。ノーシスの学習に参加するのはよそう……」と。

ノスティックは狂信的であってはならない。すべてを学び、無用なものを退け、役立つものを受け入れるべきである。そしてどんな宗教、宗派、教団、学派にも反対してはならない。ノーシス協会は多くの宗教、宗派、教団、学派の道徳的浄化のために闘ってきた。人類はいくつもの集団に分

かれ、それぞれ特有の教育制度を必要としている、ということを我々は知っている。すべての宗教、宗派、学派は神性という金糸に通された、極めて貴重な真珠である。

名前や教義の分け隔てなく、すべての宗教の祭式を執り行える教会を建てなければならない。事実、宗教は言葉では表すことのできない神聖なものである。すべての宗教、宗派、学派は必要である。宗教的嫉妬は情欲的嫉妬の高じたものであり、宗教的嫉妬を抱くことは恥ずべきことである。ノーシスの兄弟たちは嫉妬、競争を超越しなければならない。それははなはだ卑しい情念である。

ノーシス運動はすべての宗教、宗派、学派に属する人々から形成されている。

霊に関する最悪の病気は、神経病である。現代人は神経衰弱に陥っている。神経衰弱は悪魔的であるということを覚えておきなさい。常に優しさ、忍耐、愛を培いなさい。智慧と愛をもって子供を教育しなさい。家庭では喜び、優しさ、愛を培わなければならない。神経衰弱は霊の蓮華を傷つけることを覚えておきなさい。子供に身をもって模範を示しなさい。そしていつも喜び、幸福でありなさい。ノスティックの家庭は、常に愛と幸福の至聖所でなければならない。神経衰弱の叫び声、棒と鞭は幸福を遠ざけ、そのとき愛の白鳩は心から永遠に飛び去ってしまう。それは多くの家庭の災いである。

智慧と愛を持って生活しなさい。

* * *

第十一章 瞑 想

あるときインドのスワミが奇妙なことを公然と話しているのを聞いた。彼は聴衆の前で、サマディの高みに至るために不可欠のものとしてハタ・ヨガの必要性を説いていた。長期間の努力と日々の修練にも関わらず、多くの人々は内的瞑想に少しも成功を収めていない、とそのヨギは述べた。スワミによると、そのような失敗はハタ・ヨガをしないことに原因があるというのだった。

率直に言って我々ノーシスは、尊敬すべきこのスワミの発言に対して、断固として異議を唱える。十年、二十年と内的瞑想を実践しても光明を得ることのできない人たちは、眠気（まどろみ）が欠けていることにその原因を求めるべきである。

瞑想を眠りと結びつけることは緊急に必要である。

* * *

第十二章 超視覚と超聴覚の初歩的な体験

もしヨギが根気よく内的瞑想を続けるなら、絶えることなく辛抱強く無限の忍耐をもってそれを行うなら、時が経つにつれて超視覚による初歩的な知覚ができるようになるだろう。

初めは複数の光点だけであるが、後に、夢の中や目覚めている状態から眠りへの移行状態のときに、顔や物体または自然の景色などが現れてくる。超視覚の初歩的な知覚が始まると弟子たちは夢中になるが、これらの知覚は弟子の内的能力が活性化してきたことを示すものである。

あきらめずに続けることが大切である。内的能力の開発というのは、途方もない忍耐が必要である。それほど困難なものである。実際、始める学徒は多いが、聖ヨブの忍耐を持つ者はごく少数である。性急な者たちは、実現の道を一步も進むことはできない。この種の秘教的プラクティスは、非常にねばり強く忍耐のある人々のためにあるのである。

ヴェーダの聖なるインドにおいて、ヨギたちは一日に四回、内的瞑想を行う。我々西洋社会においては、日常生活の心配と厳しい生存競争のために一日に一回しか瞑想を行うことができない。しかし、それで十分である。大切なのは、毎日実践して一日も欠かさないことである。何度も繰り返し、絶え間なく執拗に継続することによって、ついにチャクラは回転し、その後しばらくして超視覚と超聴覚の初歩的な知覚が始まる。

複数の光点、光の映像、生き生きとした人物像、鐘の音、人間や動物の声などは、学徒の内的能力が進歩していることを正確に示すものである。深い瞑想に沈んでまどろんでいるときに、それらの知覚は起きる。

内的瞑想の際、実に多くの種類の光が現れ始める。最初、帰依者は非常に明るい白光を知覚するが、その光は眉間にある智慧の目に対応したものである。白、黄、赤、青、緑色の光だけでなく、稲妻、太陽、月、星々、火花、炎もまた超感覚的要素からなる粒子（タンマートラ粒子）である。

白色と赤色に光り輝く小さなビー玉が現れるが、それは思考の集中のプラクティスにおいて確実に進歩しているというサインである。そしてついに天使や大天使、座天使、能天使、力天使などを見るときがやってくるだろう。壮大な寺院、川、谷、山、うっとりするような美しい庭園なども瞑想中のまどろみの中に見えるようになる。

瞑想の間、時として帰依者を恐怖で満たすある奇妙な感覚が生じることがある。その一つに、尾骨チャクラにおける電流がある。脳の上部にある千枚の花弁を持つ蓮華においても、同様にある電氣的感覚を感じることもある。内的能力を開発させなければ、恐怖を打ち負かさなければならない。このような現象は全く正常なことで、心配することはない。

ごくわずかの日数でこれらのヴィジョンの現れる人もいれば、六ヵ月にわたる日々のプラクティスの後、初歩的なヴィジョンを見始める人もいる。

日々のプラクティスにおいて、初期の段階ではアストラル界の存在たちと接触するに過ぎないが、秘教的プラクティスの第二期ではメンタル界の存在たちと接触する。そして第三期には純粋な精神界の存在たちと接触する。実際そのとき、高次元の世界の有能な研究者へと我々は変わり始めるのである。

高次元の世界を初歩的に知覚し始めた帰依者は、最初のうちは、七つの封印で封じられた庭園のようであってなければならない。見聞きしたことをあらいざらい吹聴して歩く者は、これらの学習において失敗する。なぜなら高次元の世界の扉は、彼らから閉ざされてしまうからである。

帰依者を待ち伏せしている最も重大な危険の一つは、虚栄心と自尊心である。超感覚的世界の現実を知覚し始めると、多くの学徒は自尊心と虚栄心に満たされる。そのとき自分をマスターのごとく評価し、まだ内的能力を十分に開発していないにもかかわらず、不完全な超視覚に基づいて、他人を誤って批判し始めるのである。この間違っただけの結果、多くのカルマを背負うことになる。なぜなら隣人中傷者となるからである。そのとき彼は世の中を涙と苦しみで満たすのである。

超視覚の初歩的な知覚を得た学徒は、七つの封印で封をされた庭園のような存在でなければならない。自分の内なるマスターが偉大な神秘の中への参入を許し、話してよいと命じるまで口外してはならない。

秘教的規律に従う者すべてに待ち受けているもう一つの重大な誤りは、想像力を軽んじるということである。想像力は半透明であり、霊の鏡、神聖な超視覚であることを学習したが、帰依者にとって、想像することは見ることである。額のチャクラが回転し始めると、半透明状のイメージは光りを帯び、輝き、きらめくようになる。

帰依者は想像と空想を区別しなければならない。想像はポジティブであるが、空想はネガティブでマインドにとって有害である。その理由は、空想が幻覚を見せたり、間違いにすることもあるからである。

想像力を無視して超視覚を目覚めさせようとする者はみな、全くの眠りなしで瞑想しようとする者たちと同じ不合理に陥るだろう。それらの人々は、内的能力を開発することに失敗する。彼らは自然の法則を犯し、その結果、必然的に失敗するのである。

想像力、インスピレーション、直観はイニシエーションにとって、なくてはならない三つの道である。最初にイメージが現れ、ついには純粋な精神界に参入する。

イニシエーションは超視覚者全員に必要である。秘教的イニシエーションのない超視覚は、学徒を罪の世界に至らしめる。コスミック・イニシエーションを受けることが緊急に必要である。

もし超視覚者が自然の潜在意識に浸透すれば、そこで地球と人類の過去をすべて読み取ることができる。また最愛の人たちを見つけることもできるだろう。たとえば、最愛の妻が他の男性と結婚したり、あるいは彼女が不貞を働いているところを見てしまうかもしれない。もし超視覚者がイニシエーションを受けていないのなら、過去を現在と取り違えてしまい、次のように罵るだろう。「妻は私を裏切っている。浮気者だ。超視覚者であ

る私は、内的世界で妻の浮気の現場をつかんだのだ」。自然の潜在意識の中には我々の過去生の記憶が存在するのである。

超視覚者が自然の^{インフラ}低次意識に入り込む場合、人類の悪業のすべてをそこで発見するだろう。自然の低次意識の中には全人類のサタン、心理的我が棲んでいる。もし超視覚者が内的なイニシエーションを受けていなければ、聖人のサタンが、大昔の過去生で犯した犯罪と悪業を引き続き繰り返しているのを見ることだろう。しかしそれは聖人となる以前のことであり、イニシエーションを受けていない未熟な超視覚者は、過去と現在を、そしてある人のサタンとその人の真実の存在を、実際には区別できないだろう。その結果は中傷となって表れるのである。未熟な超視覚者は次のように言うだろう。「あの人は聖人であると信じられているが、実は暗殺者だ、泥棒だ、おそろべき黒魔術師だ。私は超視覚でそのような彼を見ているのだから」。これこそ中傷というものである。ひどい中傷者に墮落した超視覚者が数多くいるが、中傷の重大な危険の一つは殺人である。

猜疑心の強い、疑い深い人は、自然の^{インフラ}低次意識の中で、すべての疑惑を現実であると見なすだろう。そのとき妻、友人、隣人、マスターをこう言って中傷するだろう。「それ見ろ、私の疑いには根拠があった。私の友人は泥棒だ、黒魔術師だ、暗殺者だ。疑ったとおりの妻はあいつと浮気をしている。私の超視覚は間違わない。私は誤らないのだ。等々」。哀れな人はイニシエーションを受けていないために、自然の潜在意識に入り込んだことに気づくだけの十分な分析ができなかったのである。そこには、自分自身の想念の産物が存在する。これらすべての危険性を考慮すると、秘教学徒は人を裁いてはならない。「裁いてはいけない。自分が裁かれないためである」（注：『マタイ福音書 7:1』、『ルカ福音書 6:37』）。

帰依者は七つの封印で封じられた庭園のようであってなければならない。初歩的な超視覚と超聴覚をようやく手にした者は、まだ未熟な超視覚者である。沈黙することをわきまえていなければ、人々の中傷者となるだろう。超視覚を持つ偉大なイニシエイトたちのみが、間違いを犯さない。ラーマ、クリシュナ、仏陀、イエス・キリスト、ヘルメスなどは、決して誤ることのない、全知の、真実の超視覚者であった。

第十三章 かすかな音

ヨギが聞けるようにならないとかなければならない、ある神秘的な音が存在する。アステカ人はその神秘的な音を知っていた。チャプルテペックの丘を思い出してみよう（チャプルテペックとは「コオロギの丘」の意）。メキシコのある写本には、コオロギの丘についての描写がある。皇帝のいた古代ローマでは、コオロギは金の虫かごに入れて非常に高い値段で売られていた。古代ローマの魔術師たちは、魔術の実践に利用するためその虫を買っていた。

コオロギを枕元に置いて、その快い歌を瞑想すれば、寝入るときにかすかな音を聞くだろう。その現象は等しく調律された二台のピアノのそれと似ている。たとえば、シの音をどちらかのピアノで弾けば、もう一方のピアノは弾かなくても同じ音が出る。これは誰でも立証できるたいへん興味深い共鳴現象である。全く同じことがコオロギの神秘的な歌によって起きるのである。人間の脳内には、コオロギの鳴き声に共鳴する神秘的な音が存在する。これは同調と振動の問題である。

この虫の食物は心配ない。知ってのとおり、コオロギは野菜を食物とし、また家の中の衣類も食べる。誰も衣類を台無しにはしたくないので、コオロギを敬遠するが、この虫は山で簡単に見つけることができる。

かすかな音を聞ける者は、思いのまま即座に幽体離脱することができる。もし帰依者がコオロギの歌に集中するなら、ヨギがそれを瞑想するなら、ヨギがその歌を聞きながらうとうとするならば、突然同じ歌、神秘的な音、かすかな音が脳内に響くだろう。そのとき神秘の扉は開かれるのである。その瞬間に、ノスティックはごく自然に寢床から起き上がり、アストラル体で家から離れることができる。

想像で起き上がろうとするのではなく、我々の言っていることをそのまま解釈すべきである。帰依者は寢床から全く自然に起き上がらなさい。そ

のとき自然の摂理に従って、肉体からアストラル体が分離するだろう。

肉体の外では、快い精神的恍惚を感じる。解放された霊の感じるそれに勝る喜びはない。高次元の世界では、言語に絶する神々と話ができる。マスターの足下で学ぶこともできる。そのようにして多くの理論から解放され、知識の生きた泉で水を飲むことができるようになるのである。

帰依者はみな、かすかな音を聞けるようになるべきである。神秘的な音によって、驚異と奇跡を行うことができる。

神秘的な音を聞きたければ、完全に集中しなければならない。学徒は初めのころ様々な音を聞くだろうが、コオロギの歌に強く集中していくと、ついには聞こえるようになる。そのとき勝利を手にするだろう。神秘的な音によって、必ずや正覚に至ることができる。

神秘的な音は、つまるところ静寂な心臓から発せられる。神秘的な音のはるかなる本源は、聖なる母に求めるべきである。帰依者は大いに祈り、神秘的な音を聞く恩寵を与えてくれるよう聖なる母に懇願すべきである。聖なる母の恩寵によって、すべての帰依者は神秘的な音を聞くことができるようになる。その神秘的な音によって、即座に幽体離脱が可能となるのである。

これらのプラクティスを成功させれば、帰依者はかなりの眠気を感じるまで内的瞑想に浸らなければならない。眠りの要素を伴わない瞑想の訓練はすべて害をもたらすものであり、無駄で、不毛で、マインドを害し、脳を退廃させるものであるということを知るべきである。

内的瞑想を眠りと賢く組み合わせるとよい。

この章で触れた驚くべき虫があいにく手元になれば、その場合は文字「S」を響かせるとよい。「^{ススス}SSSSS……」というように、とても繊細で鋭いシューという音のごとく発音する（口を半開きにして上下の歯をつけて）。そのきわめて繊細な音の背後に、ただちに幽体離脱を可能とするかすかな音がある。

帰依者は内的瞑想のために、最も快適な姿勢を一つ選ぶとよい。次に大変リラックスした二つの姿勢について触れておこう。

◆—————死者のポーズ

しかばねの姿勢で横たわる。ベッドや床の上に仰向けに横たわり、両腕を体の側面に置く。死者が伸ばしているように両足を十分に伸ばす。それから、かかとをつけ、扇の形に足先を左右に開く。

◆—————燃え上がる焰の星のポーズ

両手両足を左右に開いて、焰の星の姿勢で横たわる。体を十分にリラックスさせる。そうすると五芒星の形になる。これはマスターの姿勢である。グランド・マスターたちは内的瞑想のためにこの姿勢を利用する。この姿勢の前では、闇の住人たちはおそれをなして逃げ去る。マスターが起き上がる際、五芒星の焰のようなものをそこに残していく。それが闇の住人たちを払いのけるのである。

帰依者は満腹のまま瞑想すべきではない。大食の罪を捨て去る必要がある。瞑想は夜の十時に行うとよい。夜明けにも行うとよい。学徒が夜の十時と夜明けに瞑想すれば、急速に進歩するだろう。

—————著者の勧める食事—————

著者は、次のような食事を勧めている。

一日に三度、食事を摂るとよい。

朝食）天然のハチミツをぬったトースト。それにホットミルク。

いくつか果物を添えてもよい。

昼食）野菜と果物を主食にすべきである。また、どのような穀物も食べてよい。

夕食）ホットミルクと天然のはちみつをぬったパン。それだけ。

第十四章 ヒーナスの状態

超空間は、超幾何学を用いて数学的に証明できる。ヒーナスの科学は、超空間と超幾何学に関するものである。

体積を認めるのであれば、体積の基礎的土台としての超体積も認めなければならない。幾何学的な球を認めるのであれば、同様に超球も認めるべきである。

超空間ゆえに、ノスティックは驚くべき行為を実現することができる。イエスは超空間を利用して、三日目に墓の中から肉体を取り出すことができた。そのとき以来、復活したマスターは肉体ごと超空間の中で生きている。不老不死の^{エリキサ}霊薬を受け取るイニシエイトはみな、死ぬけれども死んではない。三日目に超空間を使って墓から抜け出るのである。そのとき墓は空っぽとなる。客観的な三次元空間内での肉体の消滅・出現、壁の通り抜けは、科学的に超空間を利用することによって、いともたやすく成功することができる。科学的なノスティックはヒーナスの状態に肉体を置き、意識的に超空間内を移動する。ヨギの肉体が超空間に入り込むとき、ヒーナスの状態にあるという。ヒーナスの状態にあるヨギは、火傷することなく火中を渡り、イエスの行ったように水面を歩き、空中に浮かび、傷を負うことなしに岩や壁を端から端まで通り抜けることができる。ヒーナスの科学は超空間に基づき、原子物理学の特殊な一部門を担うものである。

超幾何学を一度も学習したことのない無知な人々は、ヒーナスの状態を否定する。この種の人々は無知ゆえに哀れむべきである。昔からの幾何学は、「平面上の一点を通る平行な直線は確実に一つ引くことができ、ただ一つに限る」という不合理な仮定に基づいている（本質的な意味で言っている）。ノーシス運動は、この三次元のユークリッドの視点を否定している。それは原子力時代の今日では、もはや全くの時代遅れとなっているからである。いわゆる唯一の平行線（絶対空間の意味で考えている）は、超空間の多次元の範囲内では増加するのである。そのときには、もはや一本

ではなくなる。ユークリッドの言う唯一の平行線は、無知な人々をあざむくためのこじつけである。ノーシスはその種のこじつけを認めることはできない。「頭の中のどのような一点をも通る一本の真実の平行線を、実際に目に見える形で一本だけ引くことができる」。革命的なノーシス運動にとって、そのような立証不可能な公理は受け入れがたいのである。唯一の平行線など存在しないし、幾何学者ユークリッドの教理上の絶対三次元空間とは立証不可能な上に、間違っている。我々の経験する物質界が実在する唯一のものであるという不合理な主張は、学識はあるが無知な人々の、あまりにも陳腐な理屈であるように思える。彼らは一度も電磁場や、物質の「原因の中の原因」としての、いわゆる原物質を研究したことはないのである。

四次元は超空間的である。ノスティックは、肉体を超空間に入れるための特別な方法を持っている。無知な人々がヒーナスの状態をあざ笑うのは致し方のないことである。知らないものをあざ笑う者は、愚か者になりつつあるということであり、事実、愚か者だけが自分の知らないものを笑いとばす。惑星間の無限の空間は曲がっているとノスティックは断言する。無限は絶えざる運動の中で存続しているとはっきり言うことができる。融合することなく相互に浸透し合っている各次元の空間は、回転しながら無限に連なっていると断言する。それらすべての星満ちる無限の空間は、超楕円形をしていると断言できる。マインドの力によって、人間は回転するような超楕円空間にも肉体を入れることができるとはっきり言うことができる。革命的な宇宙物理学は超空間の存在を世に証明することができるとはっきり断言する。一本の線の中には他の超空間があると断言する。世界の救世主は聖地でまどっていたのと同じ肉体をまどって、現在、超空間の中で生きていると断言する。不老不死の霊薬を受け取るイニシエイトは全員死ぬけれども死んではないと断言する。不老不死の霊薬を受け取る者はみな、超空間に入るための好機をとらえて、三日目に肉体をまどって墓の中から抜け出ると断言する。これらの人々は肉体を永久に持ち続けることができる。不死のババジとその姉マタジは、何千年も前から肉体を持ち続けており、未来の第六、第七根人種の人類とともに大きな使命を果たすであろう。アルカーノ A. Z. F. とともに働く者はみな、不老不死の霊薬を求めることができると明言しよう。彼らは死ぬけれども死にはし

ない。もし本当に聖なる母を信じているのであれば、すべての人間は望むときに肉体をヒーナスの状態に置くことができると断言する。空気の精の賢者はみな、大きく飛躍することができる。ヒーナスの科学のマスターたちは地球を脱して、ここにある肉体ごと他の惑星に住むことができる。彼らは他の惑星に生身の体を運び去ることができるのである。それが“大いなる飛躍”と呼ばれるものである。ヒーナスの科学者たちの中には、すでに大きく飛躍したものもある。

ブラーナヤーマによって、肉体をヒーナスの状態に置く能力を手に入れることができる。

ヒーナスの状態に肉体を置くための鍵はいつくかあるが、それらの鍵を使う前に、ブラーナヤーマを実践することが緊急に必要である。興味深いことであるが、二人の証人であるイダとビンガラは、よく分析すると男性の左右の睾丸と女性の左右の卵巣の中にその根を持っている。精液組織の太陽原子と月原子は、その対の神経経路を通して聖杯（脳）まで上昇する。二つの鼻腔と性器官は、二人の証人を通じてつながっているのである。このことに関して、我々は深く考えさせられる。ブラーナヤーマは、特に独身者用の性エネルギー昇華法である。ノスティックはみな、ブラーナヤーマで十分に準備した後、ヒーナスの実践を始めるべきである。ヨガの偉大なマスターたちは、ブラーナヤーマの実践中に空中に浮かぶ。重力の法則を逃れる肉体のみが、空中に浮遊できるのである。超空間に入り込む肉体はいつも重力の法則を逃れることができる。

意識的にマインドの力を用いることによって、超空間に肉体を入れることができる。ヒーナスの科学は、振動の問題である。客観的な知覚の限界を越えた上にも下にも、いくつもの世界（他の次元）が存在する。思考の力によって、以下に記すヒーナスの科学の鍵を使って、肉体の通常の振動を加速することができる。そのとき肉体ごと超空間に入り込むのである。科学者が原子運動を絶対的にコントロールできるようになったときには、どんな肉体（物体）でも超空間に置くことができるようになるであろう。ヒーナス信仰の帰依者はブラーナヤーマを伴う実践に入る前に、聖なる母に祈るべきである。肉体をヒーナスの状態に置く能力を与えてくれるよう



に懇願しながら。

ヒーナスの能力を獲得するために、プラーナヤマを非常に多く実践しなければならない。ヒーナスの科学の実践にあたって、学徒は最も好きな鍵を注意深く選ぶとよい。

ヒーナス信仰には絶対的純潔と至高の聖性が必要であることを、まず理解しなければならない。親愛なる弟子よ、覚えておきなさい。ヒーナスの科学の聖なる能力は非常に神聖である。これらの能力は、遠くにいる病人の治療のためや、白ロッジの寺院に入場するためや、自然の懐^{ふところ}の中で創造の驚異を学ぶためにのみ使うことができる。ヒーナスの能力を利己的に使おうとする者はみな、おそろしい悪魔に変わり、必然的に奈落に転落するであろう。

法は法である。カルマは乱用者たちを罰する。

帰依者は最も気に入ったヒーナスの鍵を選び、勝利を収めるまで、毎日うむことなく実践すべきである。この科学は弱者のためにあるのではなく、気まぐれで移り気で変わりやすい人々のためにあるのでもない。聖ヨブのような忍耐を持つ人々のためにある。不屈の、疲れを知らない、勇敢な、鋼鉄のような不動の人々のためにある。また懐疑的な人々のためにあるのでもない。それらの人々はヒーナスの科学には向いていない。

この科学は決して公の場で見せることはできない。それは白ロッジが禁じているからである。ヒーナスの科学は手品や奇術で問題にするものではなく、またその類のものでもない。おそらく神聖で、ただ秘密裏に実践するものである。本書の著者がヒーナスの科学の公開実験を望んだとき、マスター・モーリヤが即座に介入してきて、こう言われた。「我々があなたを援助して十年が経ちます。今、あなたは自分の力を見せびらかしたいと思っていますね。力はとても神聖なものです。力を人前でひけらかしてはなりません」。そのとき以来、ヒーナスの科学は秘密であることを我々は理解した。

できればヒーナスの科学の実演をしたいと望む者が多くいる。しかし我々寺院の兄弟たちは実験室のモルモットではない。自分自身を実験するのが本当であり、誰も他人の体で実験することはできない。

一人ひとりが自分自身の体で実験できるように、いくつかの鍵を与えよう。疑い深い懐疑的な人々は、これらの学習に入らないように忠告する。なぜなら気違いになりかねないからである。正反対のすさまじい葛藤は疑い深い人たちの脳を混乱させ、彼らを精神病院に送り込むかもしれない。ヒーナスの科学は、揺るぎない信仰を持つ人々のためのものであり、疑いに満ちた人々のためにあるのではない。

それでは次に信念に満ちた人々のためにヒーナスの鍵に進もう。

◆———第一の鍵

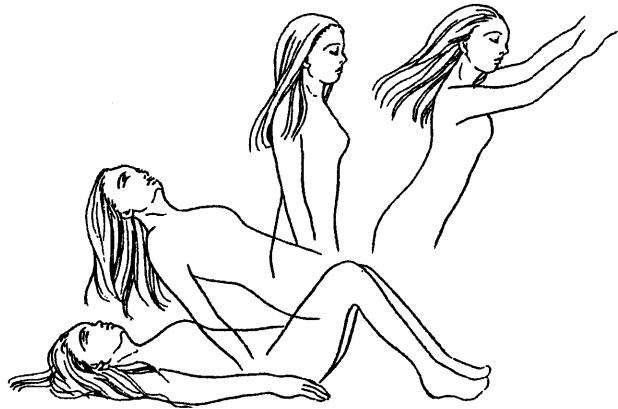
帰依者は左の手のひらに頭をのせて、身体の左側を下にして寝る。うとうとしてくる自分の眠りを見張りながら、寝ずの番をする。夢の映像を見始めたとき、貴重な宝物のように眠りを保ちつつ、寝床からごくゆっくりと起き上がりなさい。そして家を離れる前に、空中に浮かび上がるつもりで軽くジャンプしてみるのである。もし軽くジャンプして周囲の置物の上に浮かび上がったら、それは肉体がヒーナスの状態に入ったということである。もし浮かばなかったとすれば、それは肉体がヒーナスの状態に入っていないからである。ヒーナスの状態にあるとき、全く安心して何もおそれず家を離れることができる。ヒーナスの状態では地球の最も遠く離れた所へ一瞬にして旅をすることができる。もし試みに失敗したならば、一回目でヒーナスの状態に入らなかったならば、くじけず寝床に戻り、許す限り夜遅くまで何度も練習を繰り返しなさい。即座に成功する者がいるが、彼らは過去生においてヒーナスの科学を実践した幸運な者である。普通の人はこの科学を一度も実践したことがなく、ヒーナスの能力を得るためにプラーナヤマから始め、習得するまで何年間も練習しなければならない。この鍵は言わば夢遊病を改良したものであり、これによって自発的に夢遊病を引き起こすことができる。

睡眠中は潜在意識の巨大なエネルギーが作用している。学徒は肉体を超空間に入れるために、この巨大なエネルギーをてことして利用するがよい。

◆——第二の鍵

俗に「鹿の目」と呼ばれるごくありふれたアーモンドがある。それには驚くべきヒーナスの力がある。帰依者は手にそのアーモンドを持ったまま、うとうとするとよい。右手に不思議なアーモンドを握ったまま、第一の鍵で示したのと同じ姿勢をとる。そのアーモンドには帰依者を助けて肉体をヒーナスの状態に置くことのできる驚くべき^{エレメンタル}精霊が宿っている。そのことを今すぐにでも覚えておきなさい。

実践の間は、マントラ「インヴィア (INVIA)」を唱えながら眠る。すると精霊がやって来て肉体をヒーナスの状態に置くのを助けてくれるだろう。眠りを純金のごとく保持したまま大切に寢床から起き上がる。家を離れる前に空中に浮かび上がるつもりで軽くジャンプしてみよう。もし浮かび上がったら、ヒーナスの状態の家を離れることができる。浮かなかったら、勝利を収めるまで何時間でも何ヵ月でも何年でも練習を繰り返しなさい。



◆——第三の鍵

オグアラという名のマスターがいる。このヒーナスのマスターは、クリストの名において自分を呼ぶ者全員を必ず援助する。帰依者は前の章で述べたのと同じ姿勢で横になり、次のように、クリストの名においてヒーナ

スのオグアラを呼ぶ。「クリストの名において、クリストの威厳によって、クリストの力によって、われはあなたを呼ぶ。オグアラ、オグアラ、オグアラ。わが体をヒーナスの状態にしたまえ」。この祈念を何度も何度も眠りに就くまで繰り返す。それから眠りを純金のごとく保持したまま起き上がる。空中に浮かぶつもりで軽くジャンプしなさい。もし浮いたなら、それはすでにヒーナスの状態にある。もし浮かばなかったら、ベッドに戻り練習を繰り返しなさい。

◆——第四の鍵

帰依者は机の前に座り、腕を交差させてその上に置き、頭を腕にのせて眠る。これらの実践の援助のために、ヒーナスのマスターを呼ぶ。ババジ (インドのヨギ・クリスト) やその姉マタジ、ハルポクラテス、聖ペテロなどを呼ぶことができる。学徒が夢を見始めたとき、純金のように夢を保持したまま自動的に、本能的に、何も考えないで椅子から立ち上がりなさい。それから空中に浮かぶつもりで、できる限り大きくジャンプするとよい。そのとき床に鉛筆で正確な到達場所に印を付けておく。各ジャンプの長さを表示するためにいつも鉛筆で床に線を引いて、この練習を毎日飽きることなく根気強く繰り返すことが必要である。この方法はヒーナスを実践する学徒にとって、自分の進歩の度合いを評価できるすばらしいものである。きょうのジャンプは1メートルで、明日は1センチ多いかもしれない。その次の日はもう1センチ多いかという具合にである。このようにしてヒーナスにおける自分の進歩を正確に測っていき、そしてついにいつの日か驚きをもって自分がとても大きなジャンプをしたことに気づくであろう。どんな陸上競技選手にも不可能な信じられないほどのジャンプを、ヒーナスの科学における進歩を、これらの印ははっきりと示している。そのような信じられないジャンプの後、超空間に浮かんだままであることが可能であろう。彼は勝利を収めたのである。この鍵はすばらしいものである。神秘学で重要なのは、実践である。人々はもはや理論に飽き飽きしている。今必要なのは、実践的な神秘学である。理論家たちは実行することも、実行させることもしない。学徒は理論を立てることに時間を浪費すべきではない。ひっそりと実践して、勝利を胸の内にしまっておくほうがよい。この科学は秘密なので、沈黙を厳守すべきである。内緒にしておくほうがよい。そのようにして、実行することもなく実行させることもしな

い虚しい理論家たちの冷かしを避けることができる。彼らは社会の寄生虫なのである。

◆———第五の鍵

いつもの眠りから目覚めるその瞬間、学徒は意識的にも無意識的にも何も分析したりせず、概念的な選択の過程を入れずに、本能的に即座にベッドから跳び起きるとよい。叡智で満たされてうっとりとした状態で、そしてよく焼き入れして戦いのために準備された剣の鋼鉄のように、固い信念を持って飛び起きるのである。部屋を離れる前にジャンプして空中に浮かべば、すでに肉体はヒーナスの状態に入っている。それからヒーナスの状態にある肉体とともに好きなところへ行くことができる。もし浮かばなかったなら、練習を繰り返す。これらの学習には大変な忍耐が必要とされる。

◆———第六の鍵

メキシコのアステカ族のジャガーの騎士たちは、ジャガーの^{エレメンタル}精霊の力の援助によって肉体をヒーナスの状態にした。メキシコの古文書には、ジャガーの騎士たちがジャガーの姿をして寺院に赴いているのが示されている。そして寺院に着くと再び人間の姿に戻ったと説明されている。



メキシコのジャガーの騎士

古代のメキシコではジャガーの寺院は大変神聖であった。ジャガーの精霊の力によって、肉体をヒーナスの状態にすることができる。学徒はジャガーの毛皮の上に横たわり、ジャガーを支配する^{デヴァ}たちを招喚しながら眠りなさい。ジャガーの力で助けてくれるように懇願しなさい。

ジャガーの神聖な位のアステカの帰依者たちは、ジャガーと一体化して眠りに就いた。それから純金のように眠りを保って寝床から起き上がり、ジャガーのように四つ足になって歩いた。それから信仰をこめて「われらはわれらに属する」と言った。

このようにジャガーの姿をしたヒーナスの肉体で、ジャガーの騎士たちは寺院に到着した。メキシコの古文書によれば、彼らは再びそこで人間の姿に戻ったという。

ヒンドスタンのヨギたちは、虎の毛皮の上に座って瞑想気分に入る。

アステカの物語によれば、最初の人種はジャガー（神聖な力のシンボル）にむさぼり喰われたという。

「灼熱の太陽が、あなたがたに道を照らし出しますように」。

「シウコク(Xhco)が、あなたのステップに合わせて歌いますように」。

「ジャガーの力が、あなたがたとともにありますように」

「智慧の大ホタルが、あなたがたの知力を照らし出すように」

「さざめくピクル(Picr)が、あなたがたの休息に日陰を与えますように」

「エメラルドの蛙たちが休むことなく鳴いて、道を示しますように」

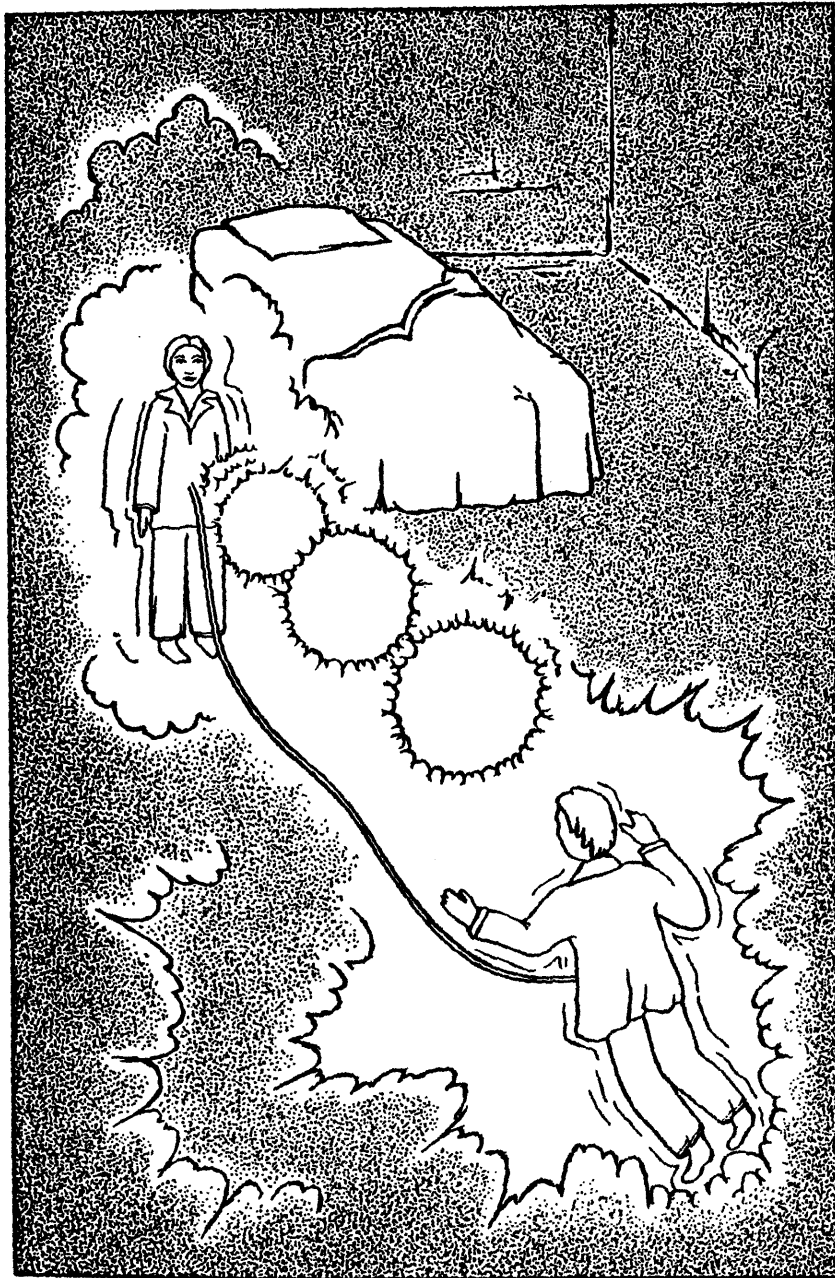
「彼女、自然があなたがたに対して惜しみなく恵みを与えますように」

「宇宙の力がわれわれを祝福し、導きますように」

西洋人のヨギはジャガー（または虎）の毛皮の上に半裸で横になり、ジャガーの騎士の秘教的実践を行うとよい。そのようにしてヒーナスの状態に入ることができるだろう。

◆———第七の鍵

アストラル体で離脱する術を知っている者たちは、遠くから自分の肉体を呼び寄せることができる。この鍵を使うにあたってノスティックがまず行わなければならないことは、アストラル体で離脱することである。肉体から遠く離れていることに気づいたら、ヒーナスのマスターの何れかを呼んで、肉体を運んで来てくれるように懇願することができる。ハルボクラテス、ババジ、マタジ、聖ペテロ、オグアラなどと呼ぶことができる。こ



れをクリストの名によって願うのである。するとヒーナスの神々が寢床から肉体を連れ出し、そう頼んだ帰依者のもとへと運んでくれる。肉体が到達するより先に、帰依者の前に最初たくさんの泡がやって来るのが見える。一番最後の泡は赤色である。その泡に続いて、ヒーナスの状態の肉体がやって来る。肉体が近づくにつれて、両肩がだんだん重くなっていくのを感じる。肉体が目の前に来たときに体験する感覚はすばらしいものである。学徒が最も奇異に感じて驚くのは、肉体も意識を持っていて我々の質問に答えるのを発見したときである。

帰依者はその体験をふいにすることのないよう、感情をすべて支配してマインドをコントロールしなければならない。もし感情に流されてしまったら、帰依者と肉体はどちらも直ちに寢床に戻ってしまい、試みは水泡に帰すことになる。

◆——デスクワーク

このように遠くから呼ばれた肉体が帰依者の星気体(sidereal body)の中に必然的に入らなくてはならない瞬間を、神秘学では「デスクワーク」という。この作業は困難である。なぜなら肉体は修得しなければならないし、霊は感情を支配し、命令しなければならないからである。

肉体は、星気体の頭の上部に位置する王冠のチャクラ、千枚の花卉を持つ蓮華を通して霊の中に入らなければならない。帰依者は肉体に命令する必要があり、そうすれば肉体はよく従う。従わなければ、それは肉体がその術を知らないからである。この場合は教える必要がある。

アストラルの星気体の頭部に飛び込み、その扉を通して帰依者の中に入るように肉体に命令しなければならない。その結果はすばらしいものである。肉体は従い、帰依者の中に入る（アストラル界では物事は異なっていて、帰依者が肉体の中に入らなければならないのではなく、肉体が帰依者の中に入らなければならない）。このようにしてアストラル界に肉体ごと留まるのである。この第七の鍵のヒーナスの方法は、すでに長くアストラル体を使いこなしてきた人々のためのものである。ヒーナスの状態にある肉体とともに偉大なる白ロッジの寺院を訪れ、創造の夜明けの中に住むグラッドマスターたちから直接教えを授かることができる。

これが実践的神秘学と呼ばれるものである。これが今、緊急に必要とされる。様々な神秘学の学校の生徒たちは、もはや窮屈な理屈やあまりの理論にうんざりしている。不幸にもほとんどの人は楽々と、努力や犠牲なしに、容易に、すぐにでも、ごくわずかの日数で、朝飯前に能力を獲得したいと望んでいる。人生はすべてを犠牲にしなければならない。ただ同然で得られるものなど一つもないということを知るべきである。これらのヒーナスの能力を所有したい者は、聖ヨブの忍耐、ジャガーの勇氣、牡牛のねばり強さ、そして真実の神智に対する飽くなき渴望を持たなければならない。この科学は気まぐれな人々のためにあるのではない。気まぐれな人々は、これらの学習をあきらめたほうがよい。同様にこの科学は好奇心の強い人々のためのものでない。処罰されず、やけどもせず宇宙の法をもて遊ぶことはできない。法は法である。聖なるものを尊重しなくてはならない。

◆————ヒーナスの物質

ヒーナスの科学の助けとなる物質がいくつかある。神秘学徒はそれらの物質を知り、用いるべきである。ヒーナスの科学はおそろしく神聖である。オルフェウスの卵、ブラフマの金の卵、エジプトの卵などは、大作業の第一物質を明確に象徴している。第一物質から、宇宙、植物、動物、人間、神々が生じる。

卵は偉大な神秘的力で満ちている。鶏卵はヒーナスの科学に利用される。

◆————フォーミュラ

卵を水の中に入れて少し温める。先のとがった先端の殻を取り除き、卵にあいた穴から白身と黄身を取り出す。そして卵の殻を砕いて粉末にしない。この粉末は、ヒーナスの科学のためにヨギたちが使うものである。

毎晩ヒーナスの実践をする前に、帰依者は胸、腕の下、脇の下のくぼんだ部分にその粉末をまぶすとよい。学徒はしっかり着込んでから、ヒーナスの実践を始めなさい。ヒーナスの実践のために十分な量の粉末を持っている必要がある。

ヒーナスの科学の偉大な力が、この粉末に隠されている。この粉末は驚くべきものである。

◆————聖 性

ヒーナスの科学を学習し実践する学徒は、必然的に三つの罪を断ち切らなければならない。怒り、食欲、そして肉欲である。そうすることによってのみ闇の攻撃を防ぐことが可能となる。もし学徒がこれらの欠点を改めない限り、文字通り、真に建設的な進歩はないであろう。

◆————衣 装

ヒーナスの科学に没頭する男性は、その実践のために黄色のパンツだけをはくとよい。それだけである。ヒーナスの実践には裸が向いている。なぜなら、衣類がないためチャクラが自由に回転するからである。

◆————女 性

ヒーナスの科学を実践する女性は、実践のためにかなり長くて幅の広いできるだけゆったりとしたチュニックを着るとよい。チュニックは、サマリア人のそれに似た大変美しいものでなくてはならない。ヒーナスの科学に専念する女性は、髪を切ってはいけぬ。髪は女性にとって慎みと貞潔の象徴である。古代、姦通を働いた女性は髪を切られた。これがその罰であった。

ヒーナスの科学を実践する女性は、男性のように下着を着てはならない。女性ではそれが不道徳となるからである。神聖なヒエラルキーは、謙虚さと慎みと貞潔を要求する。

◆————注 意

黄色のチュニックはヒーナスの実践用であって、ノーシスの^{リチュアル}儀式用ではない。それは、ヒーナスの科学だけのものである。

ヒーナスの科学の黄色いチュニックは、肌の上に直接身に着ける。ゆったりとしたチュニックの下には何も他の服を身に着けてはならない。

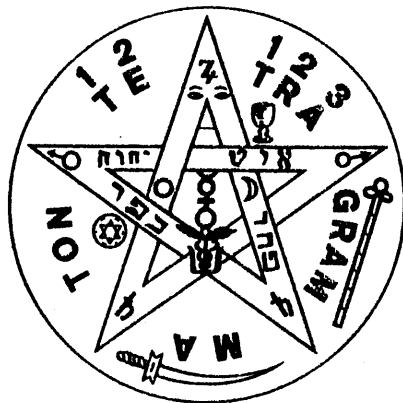
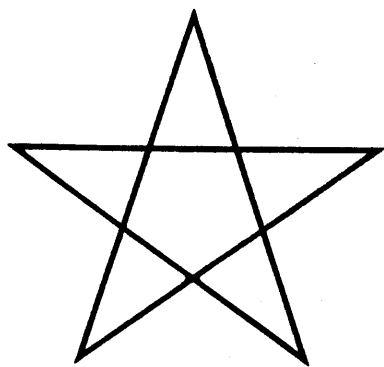
*この第十四章は『神聖魔術秘教コース』の第九章と同文である。

第十五章 聖具と香

ヒーナスの科学を実践するための特別室を常に整えておくべきである。しかしそれができない場合は、寝室を事実上の至聖所にしてもよい。純潔であれば、万事は好ましく進展する。

寝室で五つの香を毎日たいて、染み込ませるとよい。これらの五つの香は次の通りである。乳香、没薬^{ミルバ}、ロカイ（アロエ）、硫黄、樟脳。

五芒星であるペンタグラムの印を部屋の入口に描く必要がある。下の二つの頂点を室外に、上の一つの頂点を室内に向ける。この星を炭で描いてもよい。また、五芒星を描いてガラス張りの額に入れ、それをベッドの頭部に置いてもよい。この場合、上部の一つの角を上、下部の二つの角を下に向ける。（『ロゴス・マントラ・テウルヒア』参照）



部屋や寝室は黄色の物で装飾するとよい。黄色いじゅうたんやテーブル掛け、黄色い照明、黄色い装飾品など。イニシエイトは黄色いパンツの他に、黄色い部屋着を持っているのが望ましい。

ワークを行う室内には、キリストや仏陀、そして聖なる母の聖像が常になければならない。聖なる母は、イシス、インドの宇宙の母、マリア、トナンツィンとして、または単に聖霊の白鳩として表現される。これらのすべての像はある特定の聖人や人間を表しているのではなく、母なる神の神性を表現している。周知のとおり、父としての神は智慧であり、母としての神は愛である。父としての神は眉間に位置する智慧の目にあり、母としての神は心臓寺院に住む。杖の上の蛇は、聖なる母を表現している。

自分の一番好きなシンボルを注意深く選び、ワークを行う寝室で利用するとよいだろう。

寝室には祭壇が、そして祭壇には火がなければならない。イニシエイトの家に決して火が欠けてはならない。

これが『黄色の書（イエローブック）』である。仏陀たちの智慧、コスミック・マインドの科学である。

ブッダたちは黄色いマントをはおっている。メンタル界の色は黄色である。人間が四つの罪の体から解放されるとき、ブッダとなる。ブッダはみな黄色いマントをはおる。そしてキリストの光線はゴールデン・イエローである。

マインドの科学は実際に『黄色の書』を構成している。本書はマインドの科学の書物であるから、『黄色の書』なのである。

マインドの科学を実践するために、イニシエイトは毎晩十時に部屋に閉じ込めらるべきである。

イニシエイトは、信仰心のない、疑い深い人々とのあらゆる種類の議論や口論を注意深く避けなければならない。彼らは行わないばかりではなく、誰かが行うのを妨害する。そして最悪の愚かさ、悪意に満ちた学者ぶった主張に基づいて、世の中が動いてくれるように望むのである。

帰依者は毎日入浴すべきである。住居は常に清潔で、きれいで、整っていないなければならない。

ヒーナスの信仰はきわめて神聖である。愚かに苦しむ全人類のために、本書『黄色の書』においてヒーナスの神聖な科学を教えてきた。愚かな人々は、信じず、望まず、受け入れない。それは愚かさゆえである。

ワークの部屋にはいつも花がなければならない。花、香、象徴的な聖像、崇高な音楽は智慧と愛に満ちた雰囲気づくりに役立つ。

* * *

結 び

無上の喜びを持って、我々はこの作品を終えることができた。本書を、哀れに苦しむ人類に謙虚な気持ちで捧げよう。

インティモの自己実現には三つの光線が存在すると言われてきた。それらは神秘家の光線、ヨギの光線、家庭のかまど（炉）の道の光線である。

愛するノーシスの兄弟たちは、杖を支えにこの三つの道を同時に歩く。我々の銘はテレマ（意志）である。

親愛なる兄弟たちよ、ここに完全に実践的な神秘学の書がある。神の愛ゆえに、無限の謙虚さをもって、我々寺院の兄弟たちはあなたに忠告しよう。どうか、理論づけするためにあなたの時間を無駄使いしないでほしい。理論のアヘンは、死より苦いものだからである。

智慧を獲得するために謙虚でなければならない。智慧を獲得したなら、さらに謙虚であるべきである。

本書の教えを実践しなさい。そうすれば神聖な能力を開発することができるであろう。

最愛なる兄弟たちよ、意志堅固で忍耐強くありなさい。聖なる母クンダリーニーを絶対的に信じなさい。心から崇拝すべき母は、帰依者をチャクラからチャクラへと案内してくれる。

魔力を持つ火の蛇が目覚めるとき、帰依者は忘れることのできない短い六つの体験をする。すなわち神聖な幸福、身体と身体各部の震え、幽体離脱、精神的恍惚、尾骨の痛みと不思議な失神、熟睡しているが意識ははっきりしている、以上の六つの体験である。

これら六つの特徴は、弟子のクンダリーニーが覚醒したことを示している。このようにして庭師はエデンの園の美味な果実が実るまで、愛の崇高なネクター（神酒）によって、内なる繊細な庭園に水をまく。

事実、『黄色の書』は、実践的な秘教学の手引き書である。愛する弟子たちよ、この作品はイニシエーションの道における確かな案内書である。

本書を研究し、最高の忍耐をもって熱心実践しなさい。クンダリーニー覚醒とともに、数々の神秘的力が現れる。そのとき、傲慢にならないよう特に注意しなければならない。それらの力を持っても、持っていない者のように振る舞わなければならない。自分自身の惨めさと罪を認めなさい。無を住処としなさい。我々は、決して罪を犯したことの無いものの罪深き影にすぎないのだから。

我々は内的能力を開発する必要があるが、我、私自身、生まれ変わるエゴを溶解しなければならない。我を溶解することによってのみ、完全な解脱を得ることができる。

「我」は、マインドの様々な奥底に忍び込んだ恐ろしい悪魔^{ラルヴァ}である。我が溶解するとき、かの偉大なる光の主が霊の中に入り、そこに自分の館を建てる。

クンダリーニーが覚醒したにもかかわらず、生きている我をいまだマインドの奥深くに残している某グランド・マスターを見るとき、我々寺院の兄弟たちは大変な苦しみを感じている。

親愛なる兄弟たちよ、この書物はクンダリーニー覚醒とすべての神秘的能力の開発に貢献するものである。実践しなさい。しかし我を溶解しなければならない。もう一度言うが、我々は自分自身の惨めさと罪を認めなければならない。

大いに断食し、祈り、そして信仰と忍耐と純潔をもって、ニルヴァーナへ至る石ころだらけの道に足を踏み入れなければならない。

序 論

【ハチミツ】 神智学によれば、レムリア根人種期に金星から「炎の君方」が到来したという。インドの聖典にはその指導者名サナート・クマラが出てくるが、クマラとは「君主」「統治者」の意である。一緒に3人の弟子クマラ方と約25名のアデプト、さらに金星の一般人百名も到来した。そのとき金星から特に望ましい食料として小麦がもたらされ、蟻と蜂も持って来られた。蜜蜂は我々に理想的食料（ハチミツ）を与え、花の受精を助けて植物界を改善する。

第一章

【ハタ・ヨガ】 体位法（アーサナ）を重視するヨガの一派。

【エレウシスの密儀】 紀元前14世紀頃エウモルポスによって始められ、紀元後400年頃まで存続した。ギリシアのアッティカ地方の町エレウシスを中心地。イニシエーションは二つに分かれ、春にはイリソス河畔のアグラで小ミュステリアが行われ、秋にはアテネのエレウニオンで大ミュステリアが行われた。密議は娘ペルセポネの強奪、母デメテルのさすらい、ハデスとペルセポネの結婚、デメテルとゼウスの結婚からなる。

【いまだかつて死すべき者は】 エジプトのセイス市の神殿には次の碑文がある。「われイシスはかつてありしもの、あるもの、あるであろうもののすべてである。いかなる人間もわれを明らかにすることはない」（本文との相違は単に訳し方の違いによる）。（マンリー・P・ホール著『象徴哲学体系Ⅰ 古代の密議』より）

第二章

【ペンテコステ】 ギリシア語。ユダヤ教では「過越の祭」の50日後の五旬節にあたる。キリスト教では聖霊降臨日。

【マハーチョハン】 「大いなる主」の意。神智学では菩薩、マヌと共に大密儀の第七イニシエーションを受けた存在。菩薩は第一ロゴスに、マヌは第二ロゴスに、マハーチョハンは第三ロゴスに対応する。

【トリベニ】 ガンジス河、ヤムナー河、それに天上に通じるという空想上のサラスヴァティー河の合流点。すなわちイダ、ピングアラ、スシュムナの各導管の合流点。

【ニルビカルパ・サマディ】 サビカルパ・サマディ（有分別三昧）では、ヨギの意識は宇宙霊の中に完全に没入してしまう。このとき彼の生命力は肉体から引き上げられ肉体は死んだように硬直するが、それでも仮死状態になった自分の体を完全に意識している。しかしニルビカルパ・サマディ（無分別

三昧)に達すると、何ら肉体的硬直を伴うことなく宇宙意識を保持しながら、ふだんと全く同じ状態で日常の仕事に従事することができるようになる。

(パラマハンサ・ヨガナンダ著『あるヨギの自叙伝』より)

【ババジ】 ババジとは、「尊い父」の意(ちなみにババジの姉だと言われるマタジは「尊い母」の意)。古代インドのヨガの秘法を唯物主義の現代に復活させたヨギ・クリスト。ババジのインドにおける使命は、預言者たちを助けてその使命を遂行させることである。かつてヨガの秘法をスワミ僧団の創始者シャンカラと、16世紀の有名な大師カビールに伝えた。そして19世紀の第一の弟子がクリヤの再興者ラヒリ・マサハヤである。

【メルキセデック】 原語の意味は「正義の王」(マルキー・ツェデク)。聖書では「サレム(エルサレムの古代名)の王」であり、同時に「いと高き神の祭司」でもある。メルキセデックは「地球の王」と呼ばれる。アブラハムが凱旋したとき、彼はパンと葡萄酒を持ってねぎらい祝福する。アブラハムは彼を崇めるため戦利品の十分の一を送った(創世紀 14:18-20)。この聖教団の人々は、地球の地底王国アガルタに住む。そこにはイエスの弟子、聖ヨハネもいるが、彼は一度も肉体を捨てるに至らなかった。メルキセデックにつき従う人々も彼自身も、無限の宇宙空間を旅するための宇宙船を持っている。(『ノーシス秘教辞典』より)

第四章

【クリヤ】 クリヤ・ヨガ。感覚の動揺を静めて人間の意識を宇宙意識にまで高める技法。ホーン・ソー行法とオーム行法はその霊的準備として不可欠である。パラマハンサ・ヨガナンダが1920年にロサンゼルスに設立した国際本部SRF(セルフ・リアライゼーション・フェローシップ)は、クリア・ヨガの普及にあたっている。

第五章

【クリヤー・シャクティ】 自然界には、七番目のものによって統合される六つの力があるが、クリヤー・シャクティはその一つ。それ自体の固有のエネルギーにより、外部で知覚可能な現象的結果を生み出すことができる“念い”の神秘的な力。古代人の教えによると、ある考えに注意力を深く集中するならどんな考えでも外部に現れるという。同じように強烈な意志力は望んだ結果を生む。ヨギは一般にイッチャー・シャクティ(意志力)とクリヤー・シャクティによって奇跡的なことをなす。(H.P.ブラヴァツキー著『シークレット・ドクトリン』より)

【仏陀は五月に降りてきて】 南方の伝承では、仏陀は5月の満月の日に生まれ、悟って仏となり、死んだとされる。これを記念して南方仏教は、ウェー

サク祭をウェーサク月(4、5月)の満月の日を中心に数日間行う。京都の鞍馬山でも、鞍馬弘教の儀式の一つとしてウェーサク祭が行われる。

【つまづきの石、妨げの岩】 『ペテロの第一の手紙』の第2章8節に同様の表現が見られる。

第六章

【ラヒリ・マハサヤ(Lahili Mahasalla)】 1828~95年。ババジの弟子でヨガナンダのパラム・グル(グルのグル)。俗世間の家庭を営む一社会人であった彼は、33才のときヒマラヤ山麓でババジからクリヤ・ヨガの指導を受ける(『あるヨギの自叙伝』34章「ヒマラヤ山中に宮殿を物質化する」参照)。その後クリヤ・ヨガを通じて求道者たちを導き、俗世間を捨てずに社会的義務を果たしながらでも最高の境地に至れることを身をもって教えた。

第七章

【求めよ、そうすれば】 『マタイ福音書』7:7、『ルカ福音書』11:9。

第八章

【プラーナ】 サンスクリット語で「息(呼吸)」の意。その複数形は「命」を意味する。

【世界霊魂】 ラテン語で「アニマ・ムンディ」。人間の霊魂に対して、全世界を有機的に統合する生命原理。

第十二章

【聖ヨブ】 ヘブライの族長。神への信仰が厚く、あらゆる苦難に耐えた。忍苦、堅忍の典型。旧約聖書『ヨブ記』参照。

【ヴェーダ】 古代インド、バラモン教の根本聖典。原義は「知識」。リグ・ヴェーダ(神々に対する讃歌の集成)、サーマ・ヴェーダ(歌詠の集成)、ヤジュル・ヴェーダ(祭詞の集成)、アタルバ・ヴェーダ(呪法に関する集成)の四種に区別される。各ヴェーダ本集に付随する文献としてウパニシャッドがある。

【タンマートラ粒子】 サンスクリット語の原義は「あれ(究極の絶対者)を測るもの」。各界層には、タンマートラとタットワがある。タンマートラとはロゴスの意識の中における変化であり、タットワとはその変化によって質料の中に生じた効果のことである。

第十四章

【平面上の一点を通る平行な直線は】 ユークリッド幾何学とは前300年頃エウクレイデス（ユークリッド）により、5つの公準と5つの公理とから組み立てられた初等幾何学。幾何学原本の第5公準「平面上の一点Aとその点を通らない直線 l があるとき、点Aを通して直線 l に交わらない第二の直線は一つあってただ一つに限る」によって非ユークリッド幾何学と区別される。

【第六、第七根人種】 現在の我々アリア根人種の後、次の第六根人種コラディーが続き、身長80cmで新大陸と南極に住むという。最後に身長25cmの第七根人種リリブシャンが続くという。

【ハルポクラテス】 オシリスとイシスの子ホルスを独自に神格化したものでギリシア名。原語のエジプト語ヘル・パ・ヘルド(Heru-p-khart)は、「幼児のホルス」の意。しばしば母イシスに抱かれ指をくわえている幼児として表される。

【ジャガー】 Tiger を「虎」または「ジャガー」に適宜訳し分けた。どちらもネコ科の猛獣であるが、ジャガーはアメリカトラとも言われ南北アメリカに棲息する。一方、虎はアジア特産である。

【デヴァ】 Deva。自然界の精霊の力を支配する光輝く存在。サンスクリット語では「神」「天」「天神」などと訳される。

【ヒンドスタン】 インド北部、ヒマラヤ山脈とデカン高原との間にある広大な平野。インダス、ガンジスの二つの大河が流れている。

【アステカの物語】 アステカ人は今まで世の中には4つの太陽があり、今は5つ目であるという。第一の太陽はジャガーによって巨大な昆虫どもと一緒に飲み込まれた。第二の太陽は大風の中で壊れた。第三の太陽は水の中で爆発を起こし、不必要と思われた動物や試作された人間の祖先などは溺死した。その洪水から今の太陽が現れてきた。……(中略)……アステカ人は、この世界、我々の太陽は地震のために内側から破壊されてしまうだろうと言う。

(D.H. ローレンス著『メキシコの朝』より)

【オルフェウスの卵】 オルフェウス密儀のシンボル。オルフェウス教はカリオペの息子、トラキアの詩人で竖琴の名手オルフェウスを開祖とする古代ギリシアの密儀的宗教または哲学。靈魂不滅を説き、ディオニソスを崇拝した。

【サマリア人】 古代パレスチナ北部にあったイスラエル北王国の人々。